

CONCEPT-X 6-1-2 TURN X

GHINGHAM FLEET MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE CONCEPT-X 6-1-2 TURN X



ギンガナム艦隊モビルスーツ
CONCEPT-X 6-1-2「ターンX」
1/100スケール
マスターグレードモデル

CONCEPT-X 6-1-2 TURN X



ギンガナム艦隊モビルスーツ
CONCEPT-X 6-1-2「ターンX」
1/100スケール
マスターグレードモデル

GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
バンダイホビーサイト www.bandai-hobby.net/
Free download to your computer and connection to the Internet are
under customer's responsibility.



時代背景

かつて、宇宙に進出した人類は、数百年に渡り様々な理由から宇宙戦争を繰り返していた。その「最終戦争」と呼ばれる最後の局面において、地球を追われた月の民「ムーンレイス」と地球の間で、全人類を巻き込んだ未曾有の戦闘状況が発生した。そして双方の陣営に属する「ターンタイプMS（モビルスーツ）」による「月光蝶」が発動し、地球の表土は膨大なナノマシンが構成する「新表土」によって埋め尽くされてしまった。特定のプログラムを施されたナノマシンは、分子レベルであらゆる機械類を分解し、その痕跡を消し去った。かくして人類は、最先端テクノロジーのほぼすべてを喪失し、地球圏で隆盛を極めていた科学文明は滅び去った。人々はその過去を「黒歴史」として封印し、後退した文明の中で穏やかな時代を過ごすこととなった。皮肉なことに、この「マシンハザード」と

ムーンレイス

「黒歴史」のなかで、人類の一部は外宇宙へと巣立っていった。地球圏に残った人類はやがてふたつの勢力にわかれ、一方が地球を確保し、もう一方は月へと放逐されムーンレイスの祖となった。「最終戦争」を経て地球の文明は新表土によって覆われ、ムーンレイスも地球からの後退を余儀なくされた。双方は地球と月に分断され、地球は制限された文化及び技術のもと正暦に移行し、生存を最優先せざるを得ない状況に陥ったムーンレイスは、限られた環境の中で生き延びるためピラミッド型の高度管理社会を形成する。資源の調達や食料生産に貢献したソレル家は、その穏健な家風とカリスマ性から代々象徴的な女王を輩出し、それを行政全般と環境管理を行うメンテナ家が補佐し、そして、かつて月の首都ゲンガナムを建設した功績によって軍事を司ることとなったギンガナム家が女王を守護するという体制

呼ばれる災厄によって、大規模戦争や環境汚染の原因が根絶されたため、疲弊していた地球は長い再生の期間を過ごすことができた。だがしかし、その穏やかな時代が、黒歴史の遺産によって賄われていることを人々は忘れていた。新表土は災厄ばかりをもたらしたわけではなく、人々の暮らしを支えてもいた。自然に繁殖する太陽光発電や無/低公害燃料フロジストーンの生成など、生活のための基本的なインフラのいくつかは、これらナノマシンの産物なのである。そして時代は正暦（C.C.=Correct Century）へと至る。その頃の文明は、西暦（A.D.=Anno Domini）でいう20世紀前半のレベルに達しようとしていた。正暦2345年。世界の情勢は、まさに産業革命勃興期さながらの状況であった。

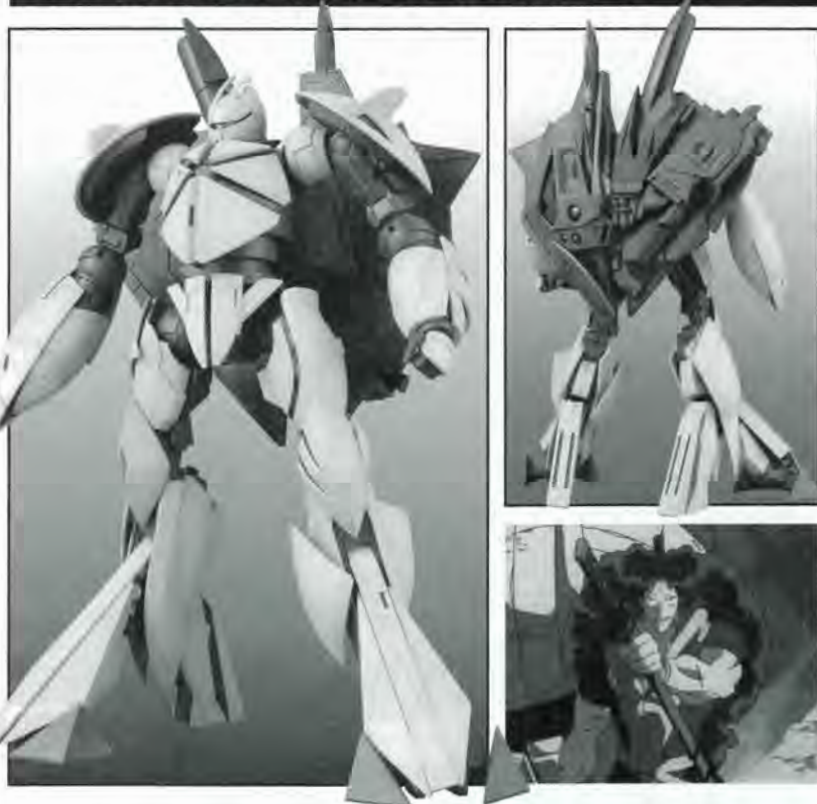
が構築され、ムーンレイスを統治する三王家として君臨している。また、ナノマシンの制御方法やIフィールドビーム駆動の技術など、黒歴史の一部のテクノロジーが温存されていたため、大規模建築や生体工学をはじめとするいくつかの分野では黒歴史さながらの技術体系が継承されている。ただし、閉鎖的環境における種としての多様性の喪失は避けようがなく、ディアナ・ソレルの治世において、「地球帰還作戦」が敢行されることとなった。



Moonrace

CONCEPT-X 6-1-2 TURN X

Concept-X Project-6 Division-1 Block-2



Concept-X 6-1-2 ターンX（エックス）は、月のマウンテンサイクルから発掘された謎多き機体である。「X」の名の由来は「X（10番目）の星により道を曲げられたもの」とされ、そもそも、この機体の異様なフォルムは、過去から幾度も補修を繰り返し受け続けたためであり、その都度応急措置として他の機体のパーツを流用してきた。のみならず、そのパーツ自体が発掘品であった場合も多く、今ではオリジナルの機体形状も判然としない。二千年に及ぶとされる「ディアナカウンター統治下」において最強をうたわれる「伝説的な機体」であり、それまでの文明を「黒歴史」として封印する要因のひとつともなった。月面のマウンテンサイクルから発掘された後、ギンガナム家によって解析・オーバーホールされたものの、大規模な戦闘がなかったため永く封印されたままだったが、V（ターンエー）ガンダム打倒を果たすべく、ギム・ギンガナムが本機の起動を強行した。その際、月面都市ゲンガナムのエネルギーのほとんどを消費し尽くし、都市機能を麻痺させた。この機体の実戦投入を強行したギム・ギンガナムは、月の首都ゲンガナムを建設した功績により取り立てられた一族を祖先に持つギンガナム家の現当主である。ムーンレイスの武門（軍事）を司り、2500年ものあいだ、月の軌道上で私設艦隊を率いて連綿と軍事演習を継承してきた。Vとの決戦においてギンガナムは、永く仕えていたディアナが地球帰還を強行し、その際に遠ざけられたことで彼女を否定するようになった心情を吐露している。

ターンXとVガンダム

TURN X
&
V GUNDAM

ターンXは、何らかの理由で太陽系外から地球圏に漂着してきた機体である。はるかな過去、新天地を求めて外宇宙へ旅立った人々が開発したMSであるとされ、本来は、かつてNT（ニュータイプ）と呼ばれた人々のために造られたものであったらしい。そのため、NTの存在しない地球圏ではその真価を発揮できないと考えられている。しかし、当時の地球圏の人々は、その先進的な技術力に脅威を感じ、万が一太陽系外からの侵略があった場合に備え、ターンXのテクノロジーを参考にVガンダム及びそのシステムを建造した。ギム・ギンガナムがターンXを「Vのお兄さん」と呼ぶ所以である。結果的に外宇宙からの侵略などはなく、地球圏で幾度となく繰り返された抗争は物量戦争に終局をもたらした。かくして、文明をリセットして再興すべきだと考える勢力と、テクノロジーの力で解決しようとする勢力による最終決戦に至り、2機は地球人同士の戦いに投入され、ターンXは敗北を喫した。その際に被った傷が胸のXの損傷であり、いかなる手段による修復も叶わない痕跡となった。かくして文明はリセットされ、XとVはそれぞれが最後に辿り着いた地でマウンテンサイクルを形成する。Vの起動時や、ターンXと接触した際に表示されるインジニアは、大もとのシステムのブラックボックスに含まれる機能に由来する。これはターンタイプ共通であり、ある種の警告が警報に近いものと考えられている。



黒歴史

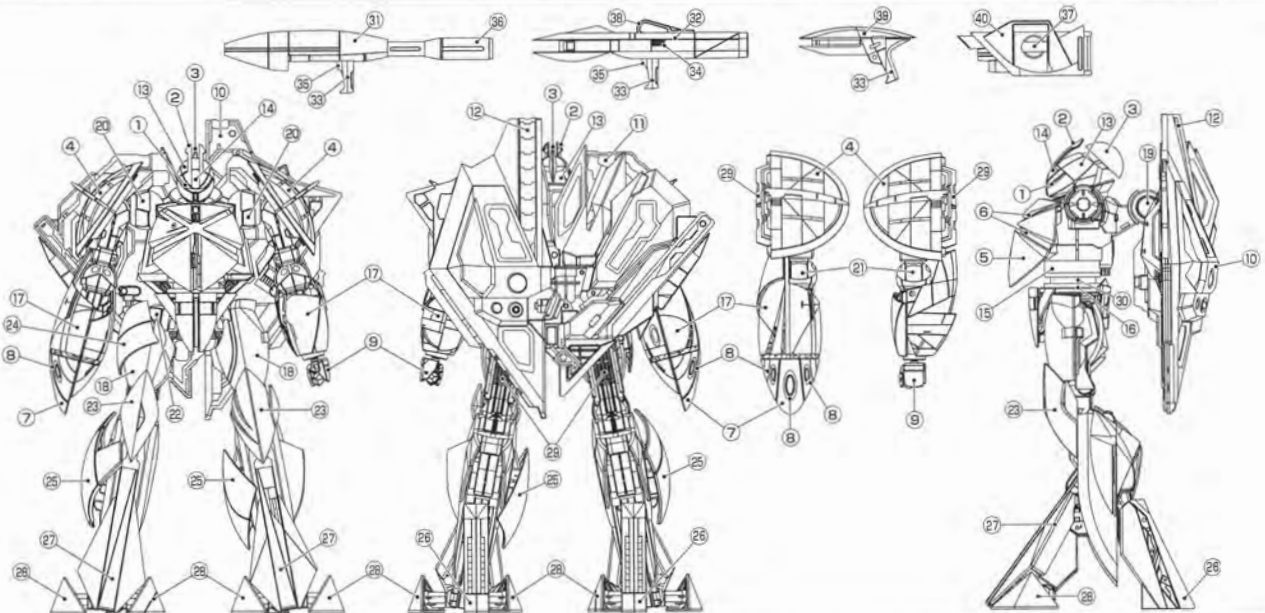
Black History

「黒歴史」とは、「Vガンダム」において語られる封印された宇宙戦争の記録のことだが、実際にはもうひとつの意味を持つ。それは【「機動戦士ガンダム」に始まる「ガンダムシリーズ」はすべて同一の時間線上にあり、それらの事柄は同一の歴史観に内包される】という遠大な概念のことを差す。すなわち、1979年に放映された「ガンダム」のU.C.（宇宙世紀）を人類の宇宙時代の始まりとし、1999年に放映された「Vガンダム」のC.C.（正暦）がその最終段に位置する。当時まで放映されていた「G」のF.C.（未来世紀）、「W」のA.C.（アフター・コロニー）、「X」のA.W.（アフター・ウォー）はいうに及ばず、原則的には2002年の「SEED」のC.E.（コスミック・イラ）、2007年の「00」のA.D.（西暦）、2011年の「AGE」のA.G.（アドバンスド・ジェネレーション）の各シリーズと、今後発表されるであろう「ガンダム」も「黒歴史」の一部として包含されることとなる（「ガンダムビルドファイターズ」は除くものと思われる）。それを可能とするギミックとして採用されたのが「ナノマシンテクノロジー」であり「黒歴史」である。実際、現実においても、歴史に関わる認識や解釈は多様なものであり、捏造が一人歩きをはじめ、それがさも事実であるかのように喧伝されてしまうような事例は



枚挙に暇がない。人は自分が信じたいものしか信じないものなのかも知れない。

Parts and Spec CONCEPT-X 6-1-2 TURN X



- | | | | | | | |
|------------------|----------------|------------------|-------------------|-------------------|------------------|----------------|
| ① マルチプルデュアルセンサー | ⑦ 溶断破壊マニピュレーター | ⑬ ヘッドユニット (Xトップ) | ⑲ ウェポンターミナルジョイント | ⑳ カーフフロートアーマー | ㉑ パズーカ | ㉒ コネクター |
| ② マルチプルセンサーアンテナ | ⑧ 三連装ビーム投射システム | ⑭ コクピットハッチ | ⑳ ショルダードックジョイント | ㉑ ヒールアクセラレータープレート | ㉒ ビームライフル | ㉓ キャリングハンドル |
| ③ リンケージシステムアレイ | ⑨ マニピュレーター | ⑮ ボディユニット | ㉑ エルボードックジョイント | ㉒ トップアクセラレータープレート | ㉓ グリップ | ㉔ ハンドビームガン |
| ④ ショルダーアーマーターミナル | ⑩ キャラバス | ⑯ ウェストユニット | ㉑ コクソッドックジョイント | ㉒ トゥソールディフレクター | ㉓ ヒートシンク | ㉔ 三連装ミサイルランチャー |
| ⑤ プレストアーマー | ⑪ パズーカホルダー | ⑰ アームユニット | ㉑ ニージョイントアーマー | ㉒ スラスタバーン | ㉓ トリガー | |
| ⑥ 胸部損傷痕 | ⑫ ビームライフルストロ | ⑱ レッグユニット | ㉑ サイドウェストフロートアーマー | ㉒ ウェストドックバルターレット | ㉓ ア7ソードカウンターユニット | |

△ 注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

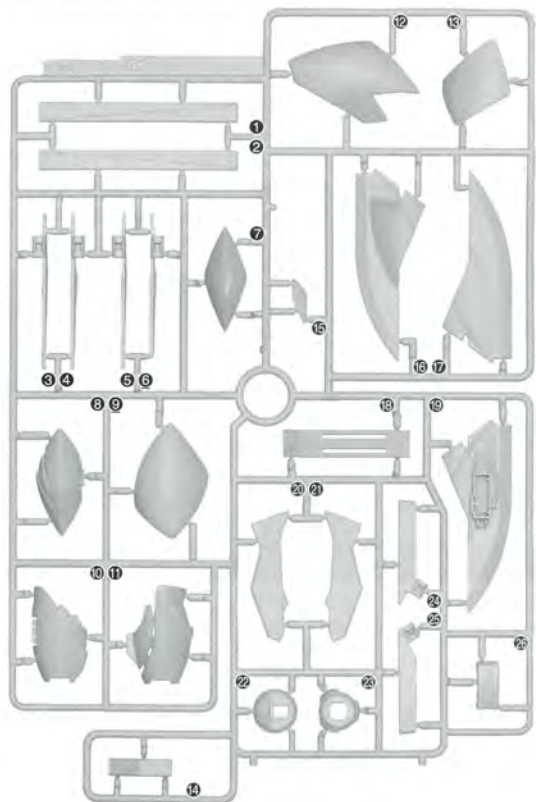
- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

＜組み立てる時の注意＞

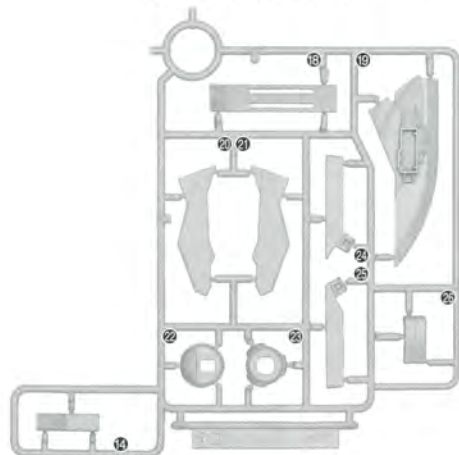
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

パーツリスト

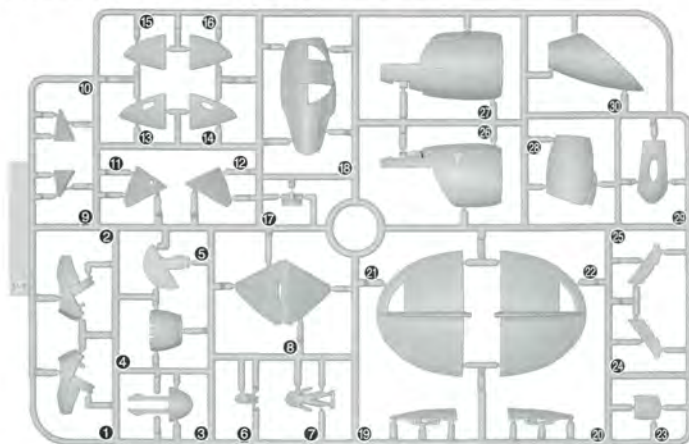
A1パーツ(ライトグリーン) (スチロール樹脂: PS)



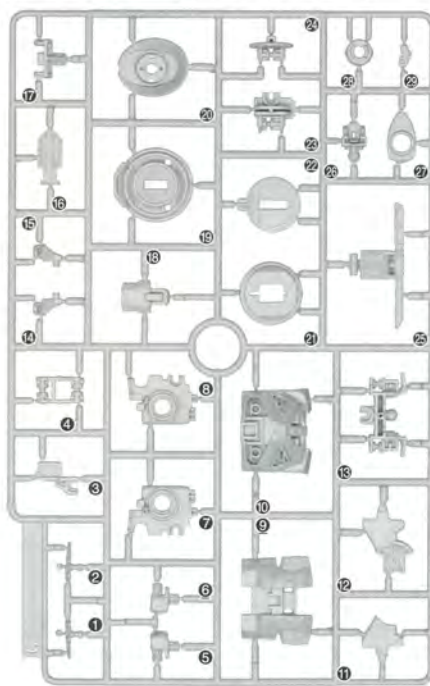
A2パーツ(ライトグリーン) (スチロール樹脂: PS)



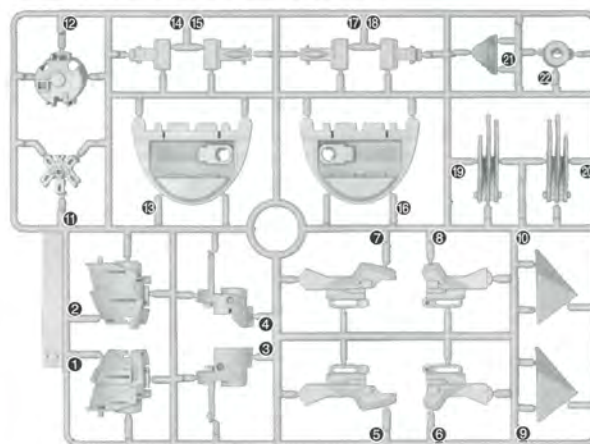
Bパーツ(ライトグリーン) (スチロール樹脂: PS)



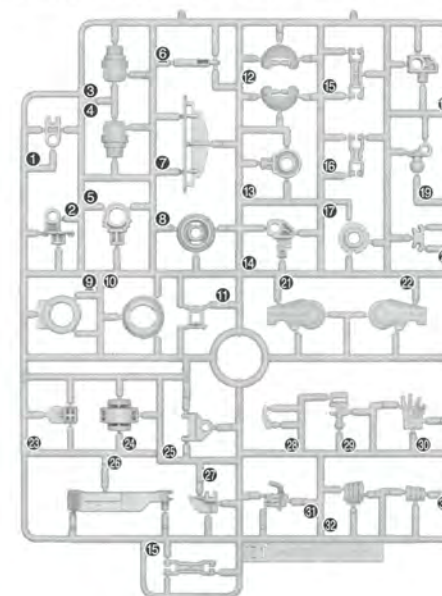
Cパーツ(グレー) (スチロール樹脂: PS)



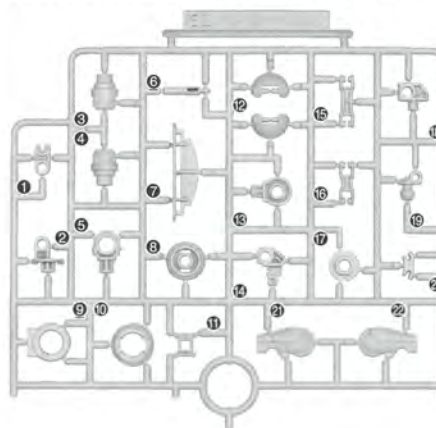
Dパーツ(グレー) (スチロール樹脂: PS)



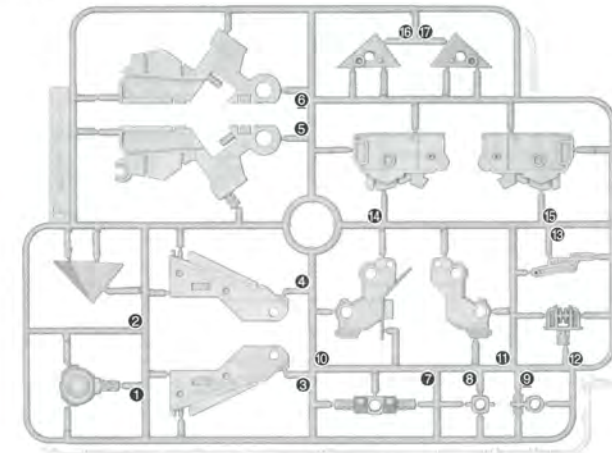
E1パーツ(グレー) (スチロール樹脂: PS)



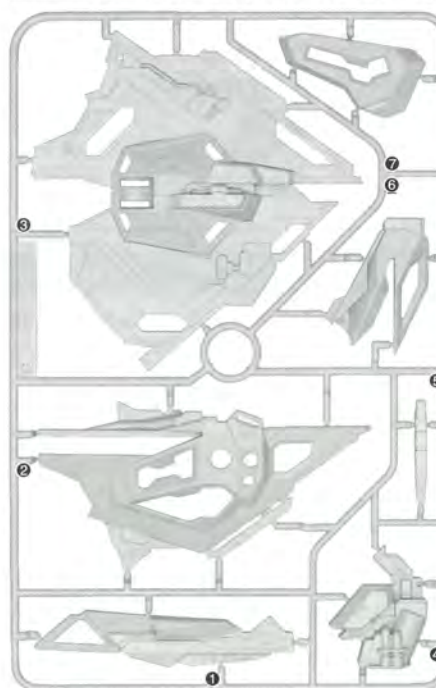
E2パーツ(グレー) (スチロール樹脂: PS)



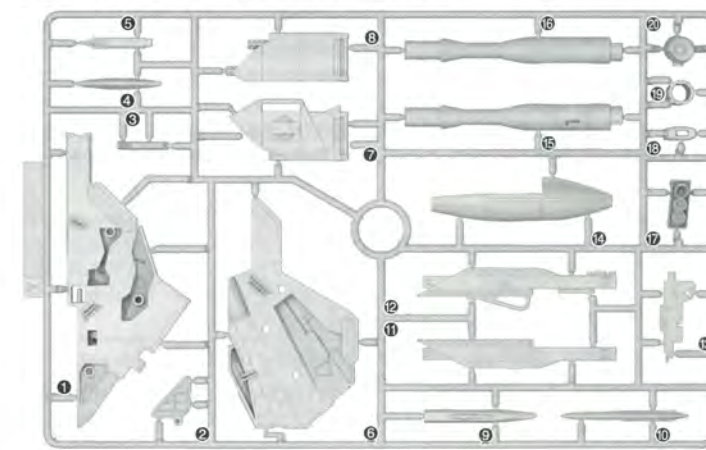
Fパーツ(グレー) (×2) (スチロール樹脂: PS)



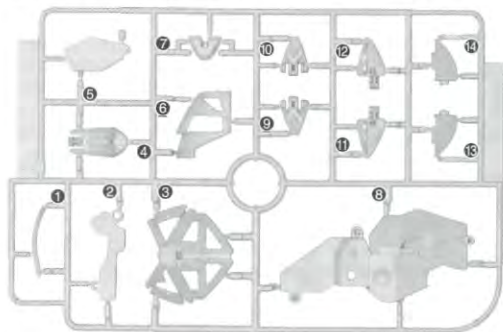
Gパーツ(ダークブルー) (スチロール樹脂: PS)



Hパーツ(ダークグレー) (スチロール樹脂: PS)



Iパーツ(クリアグレー) (スチロール樹脂: PS)



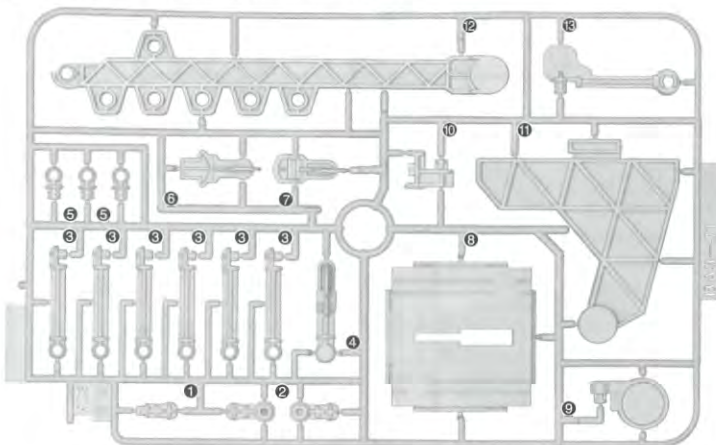
Kパーツ(クリアオレンジ) (スチロール樹脂: PS)



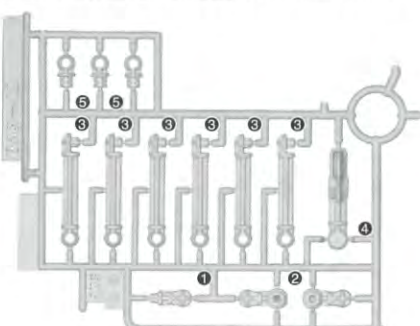
BA3-Aパーツ(クリア) (スチロール樹脂: PS)



BA3-J1パーツ(クリア) (ABS樹脂: ABS)



BA3-J2パーツ(クリア) (ABS樹脂: ABS)



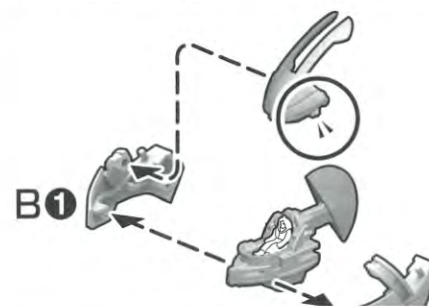
カラーシール.....1枚
マーキングシール.....1枚
ガンダムデカール.....1枚

※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

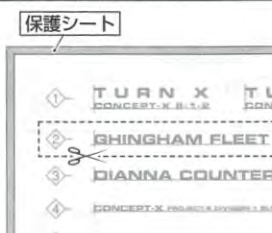
①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

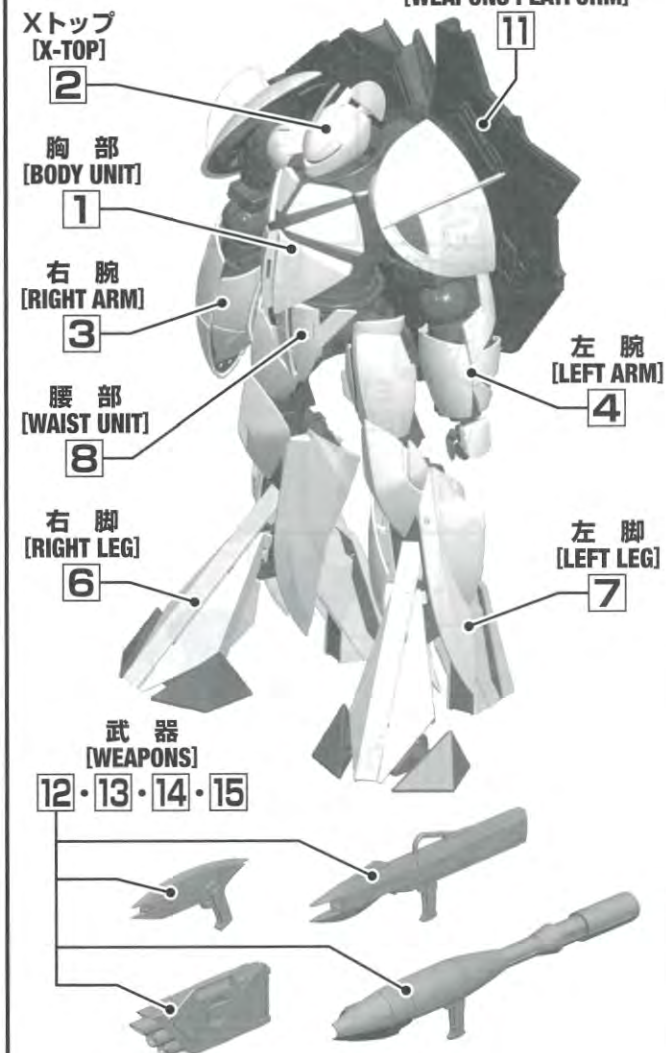
③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。



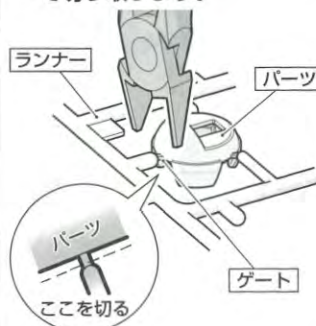
説明書をよく読んで完成させましょう

ウェポンプラットフォーム [WEAPONS PLATFORM]

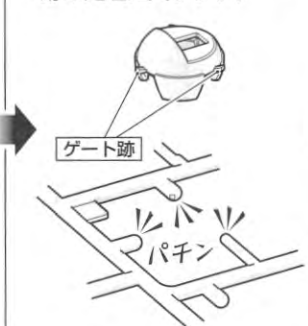


パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。

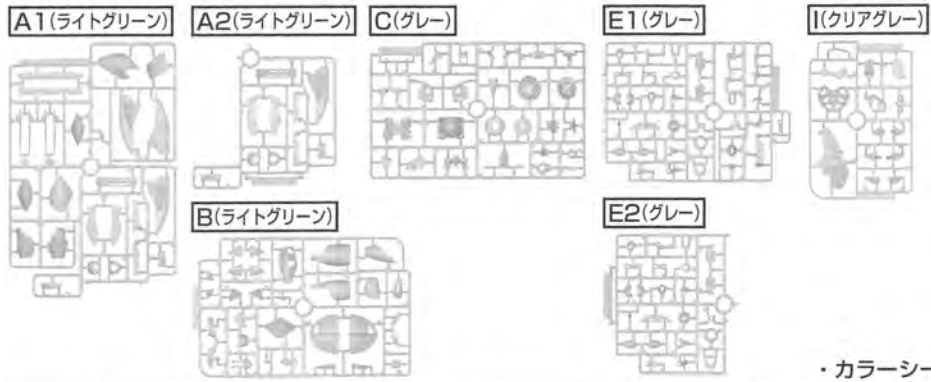


③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



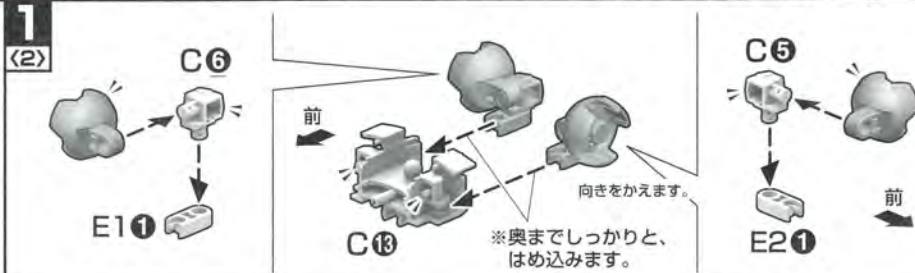
1 BODY UNIT

・組立1で使用するパーツ

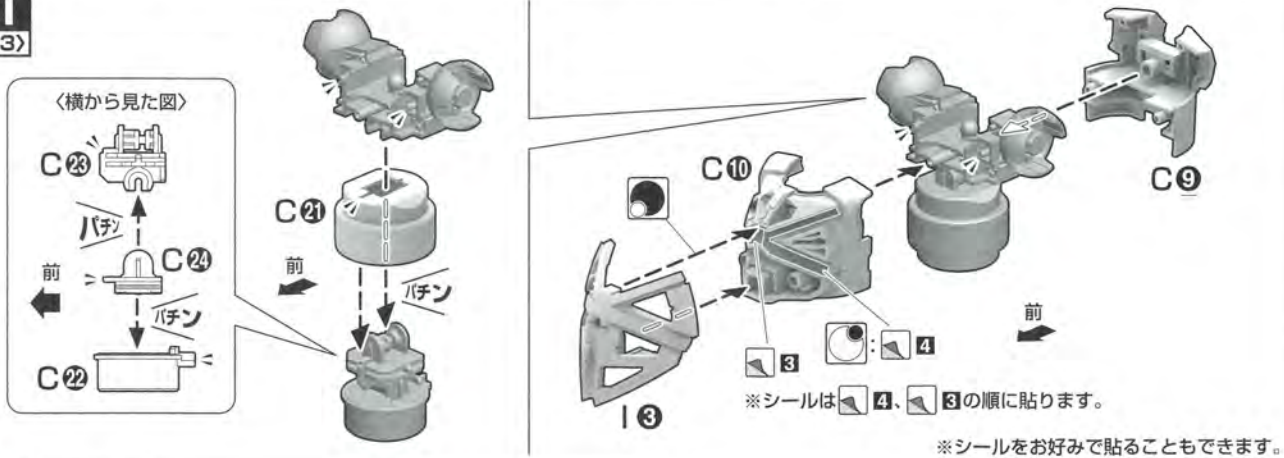


・カラーシール

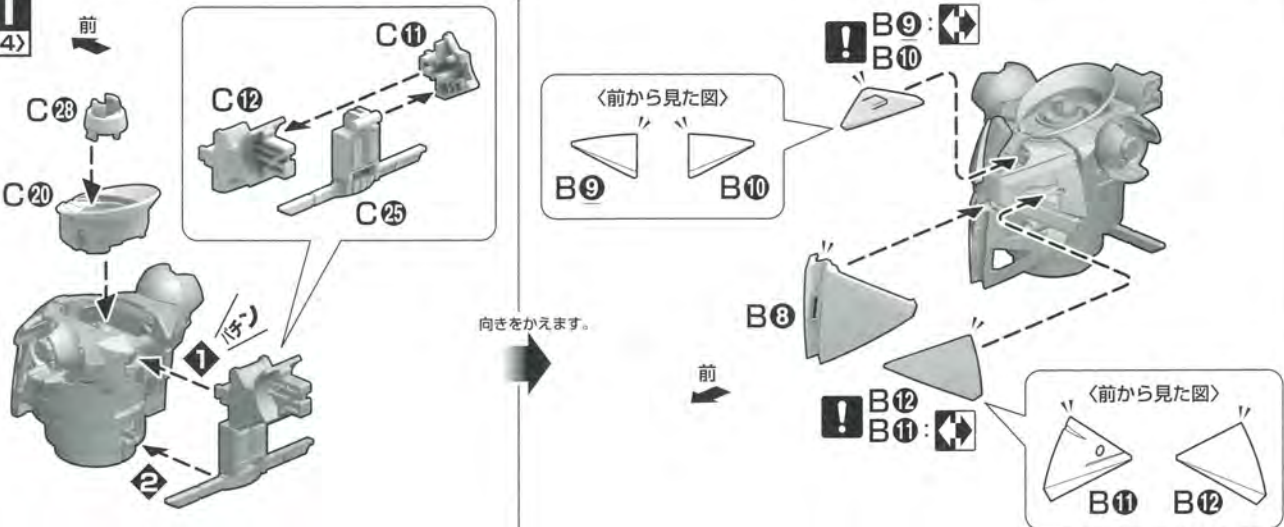
1 (1) ×2 (胸部の組立) BODY UNIT



1 (3)

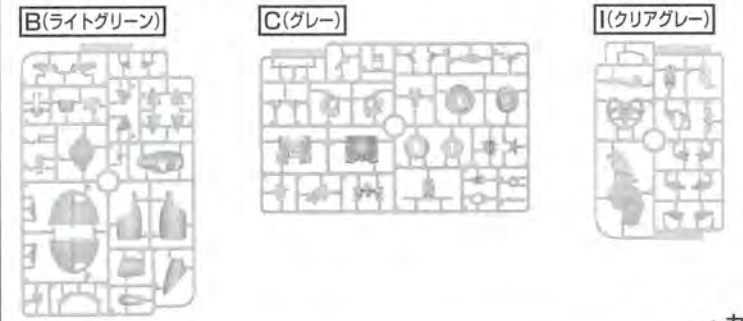


1 (4)



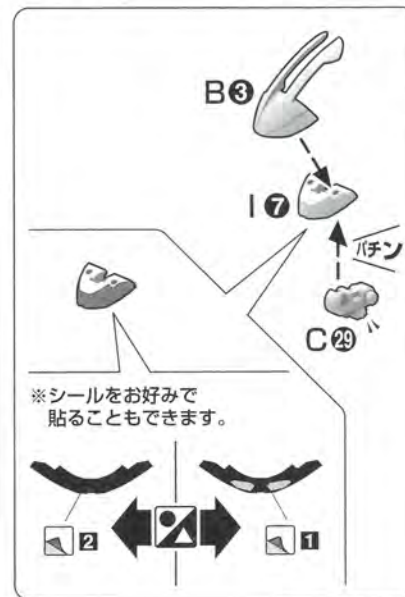
2 X-TOP

・組立2で使用するパーツ

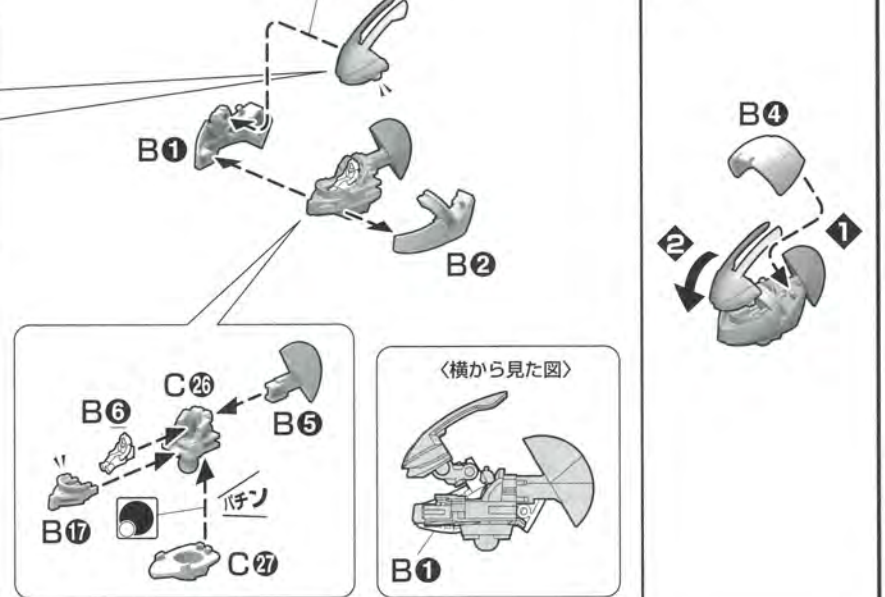


・カラーシール

2 (1) X-TOP

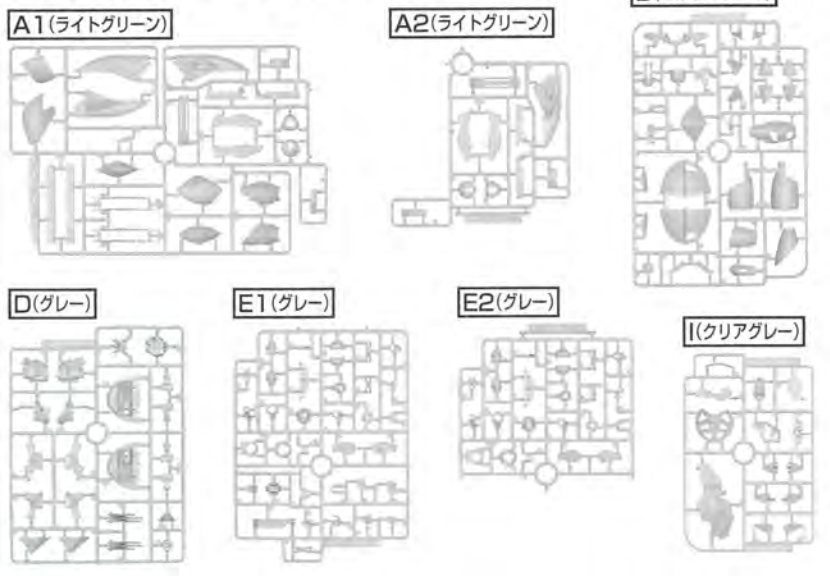


2 (2)



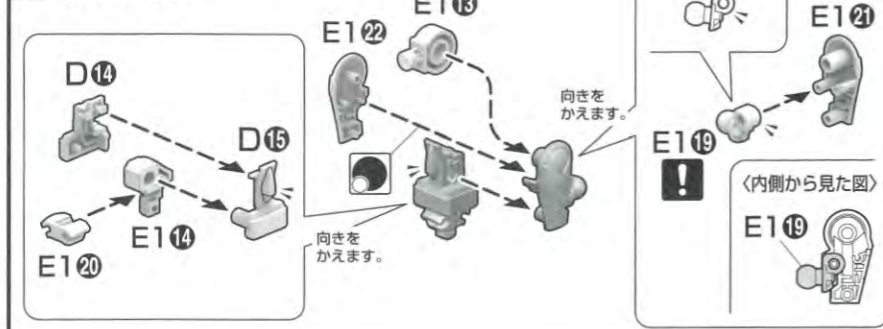
3 4 ARM UNIT

・組立3・4で使用するパーツ

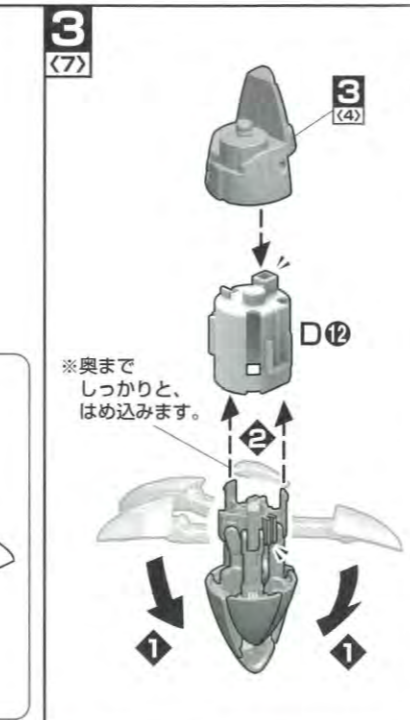
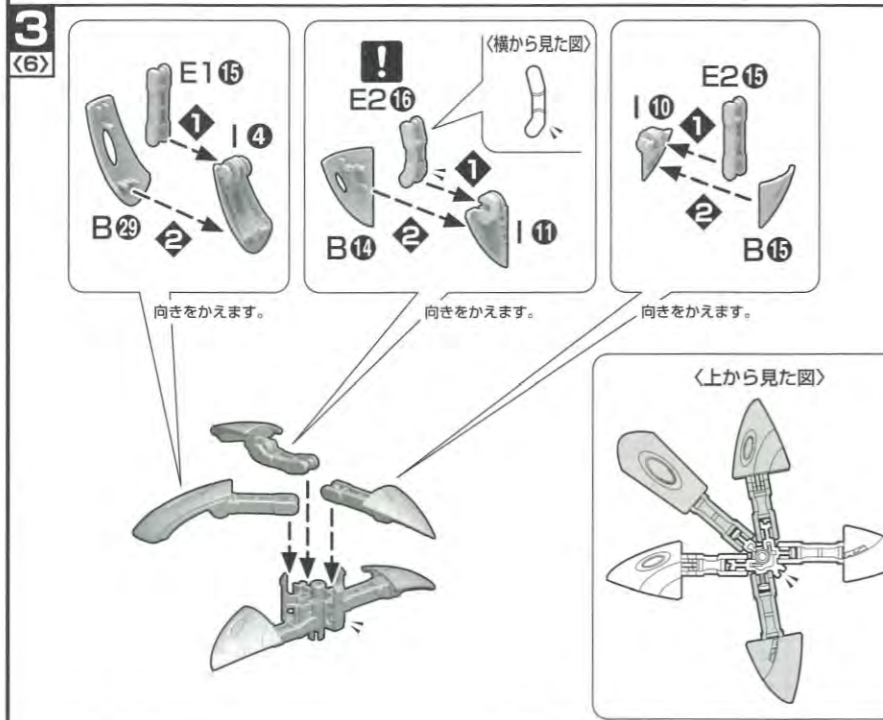
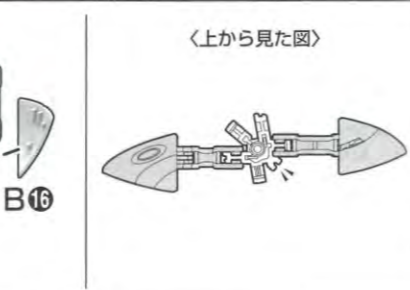
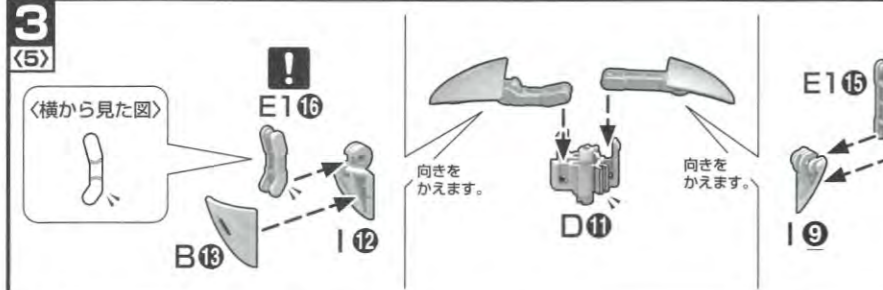
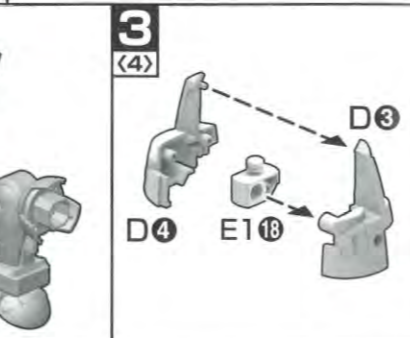
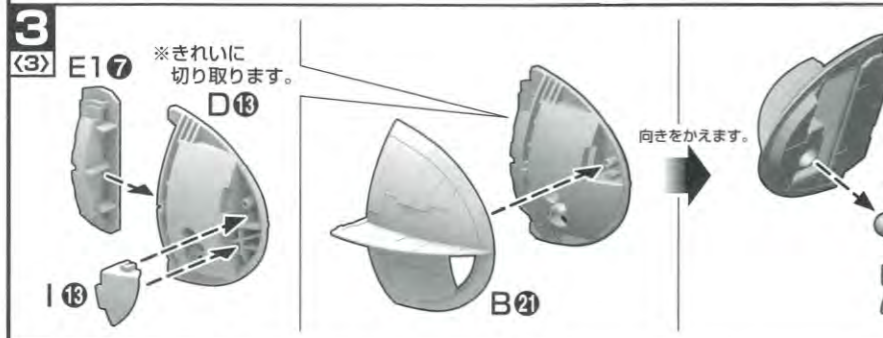
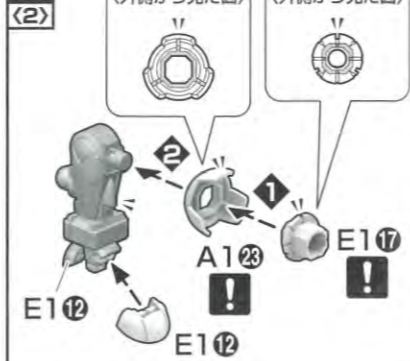


3 (右腕の組立)

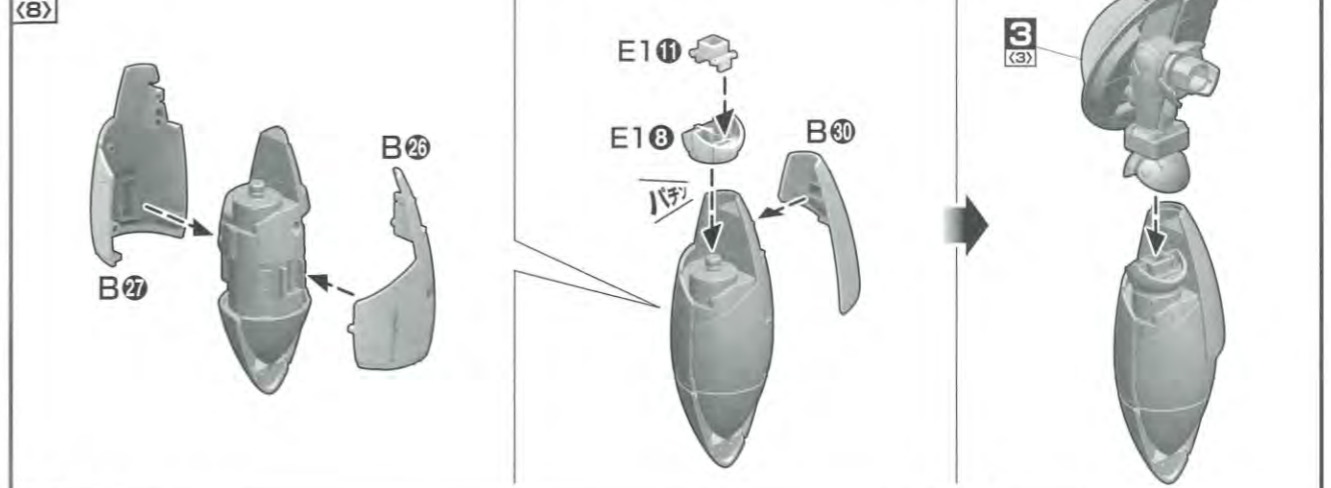
3 (1) RIGHT ARM



3 (2)

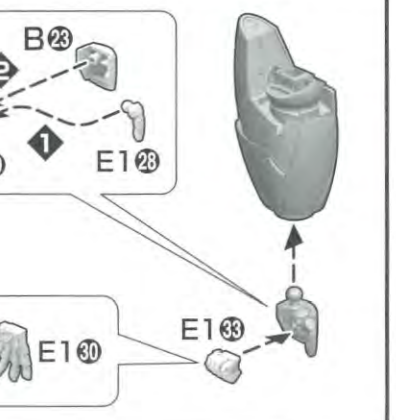
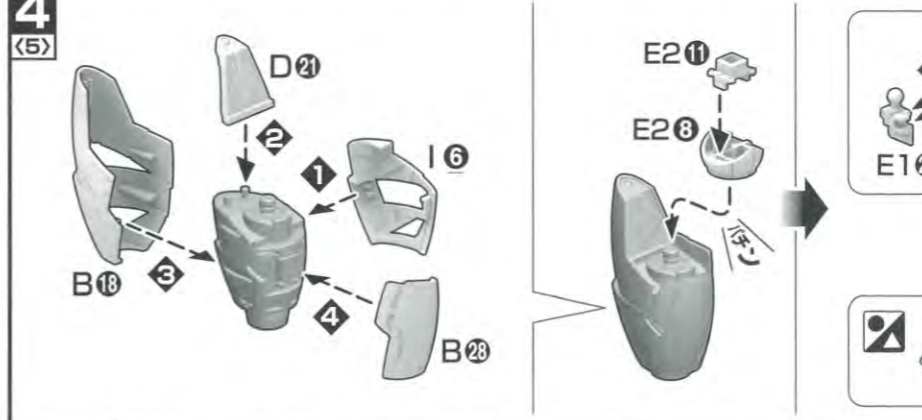
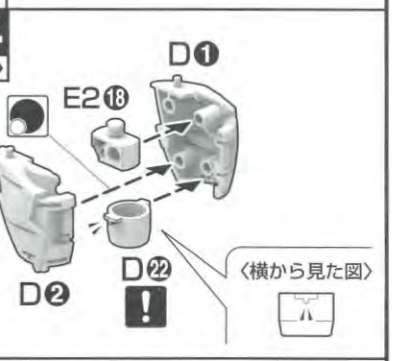
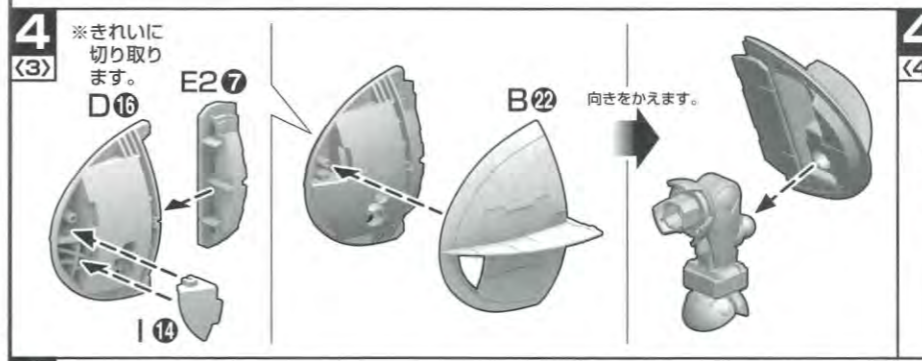
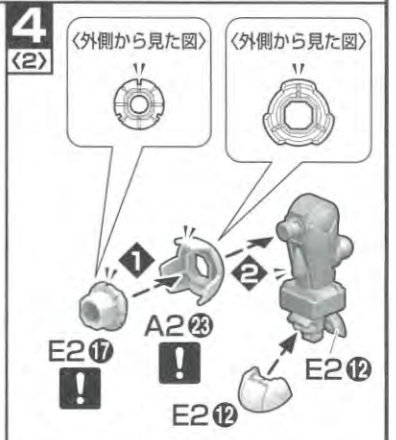
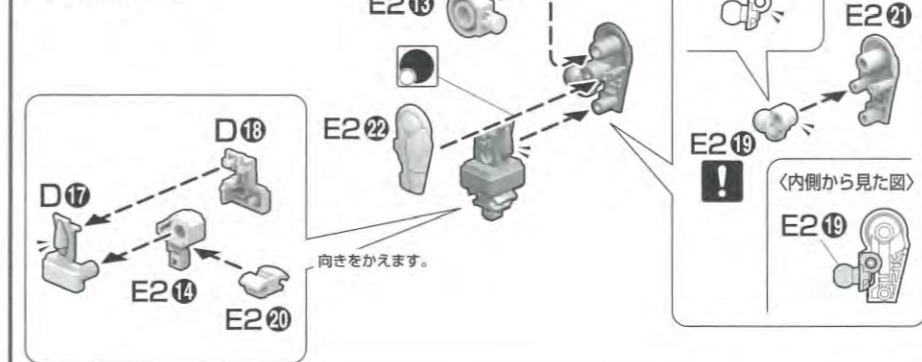


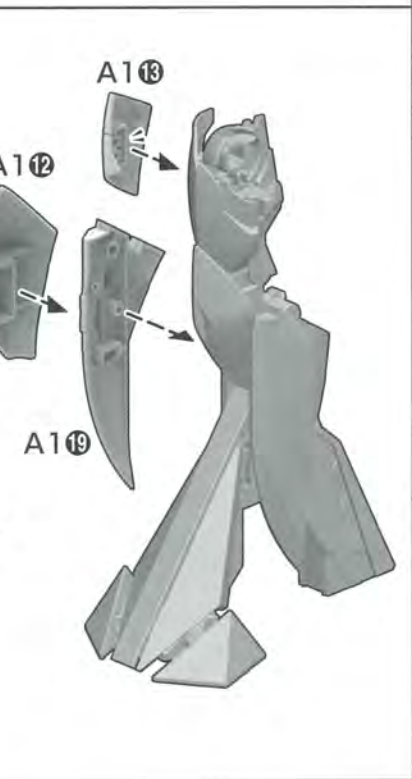
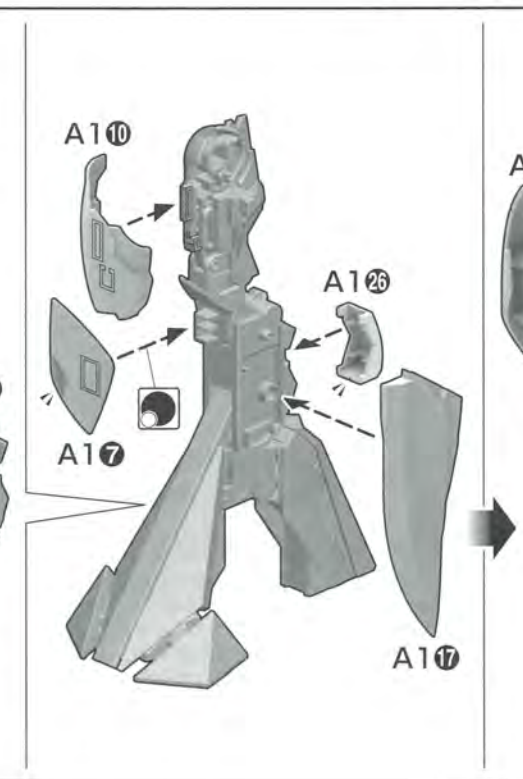
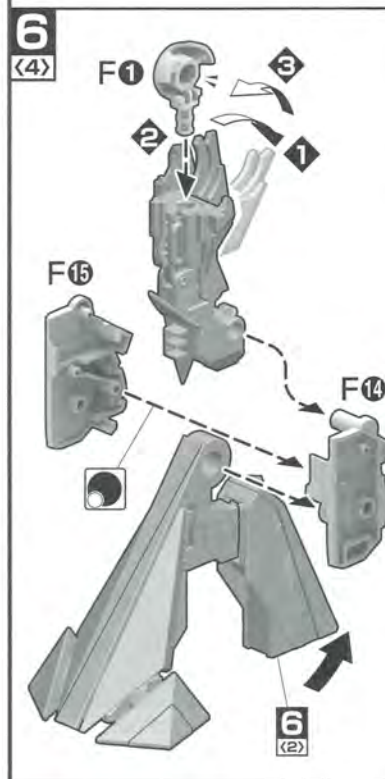
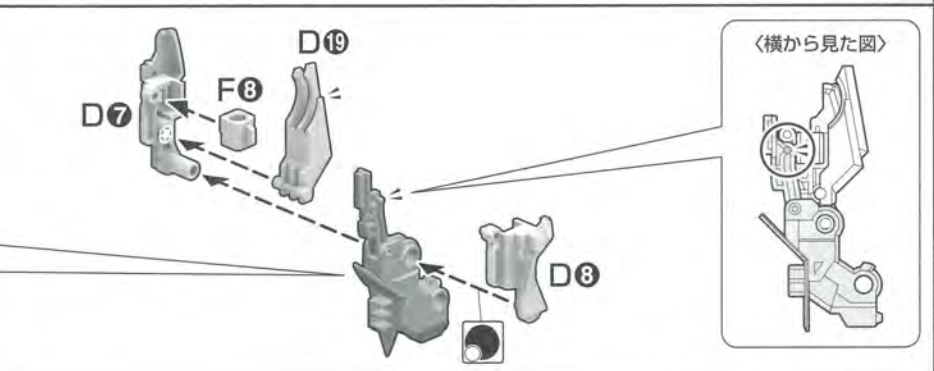
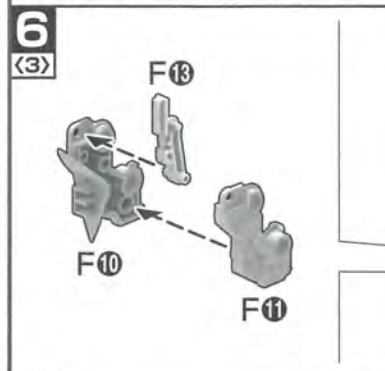
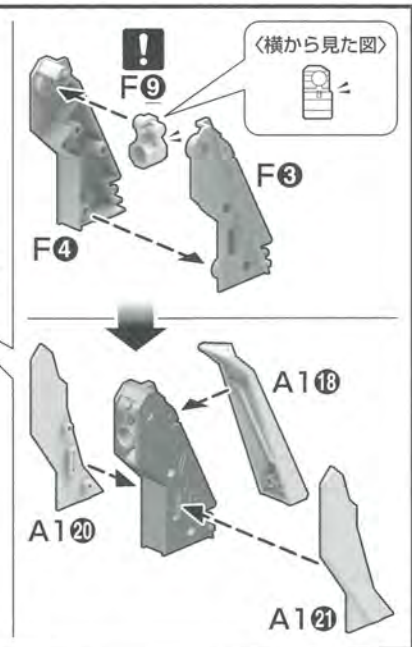
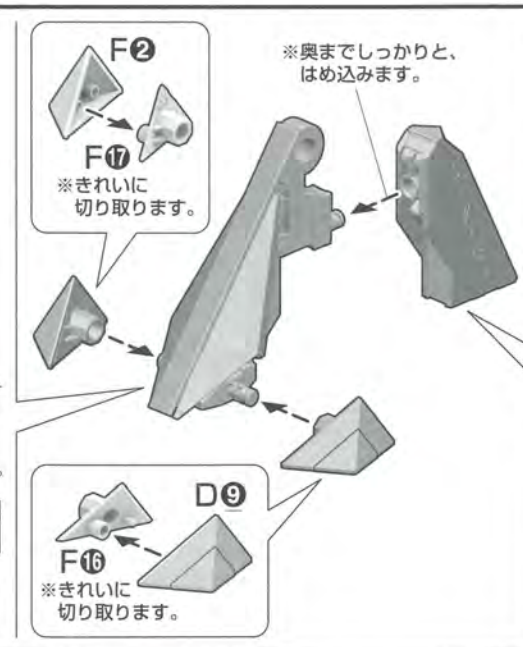
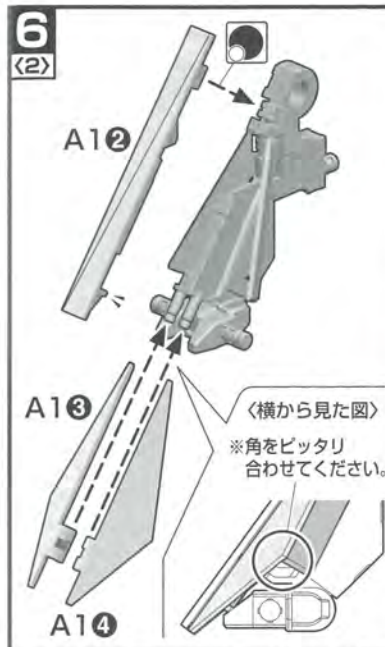
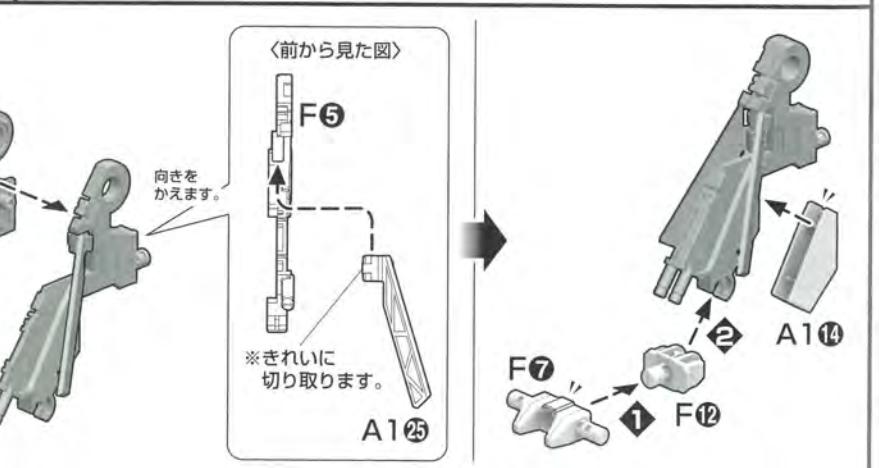
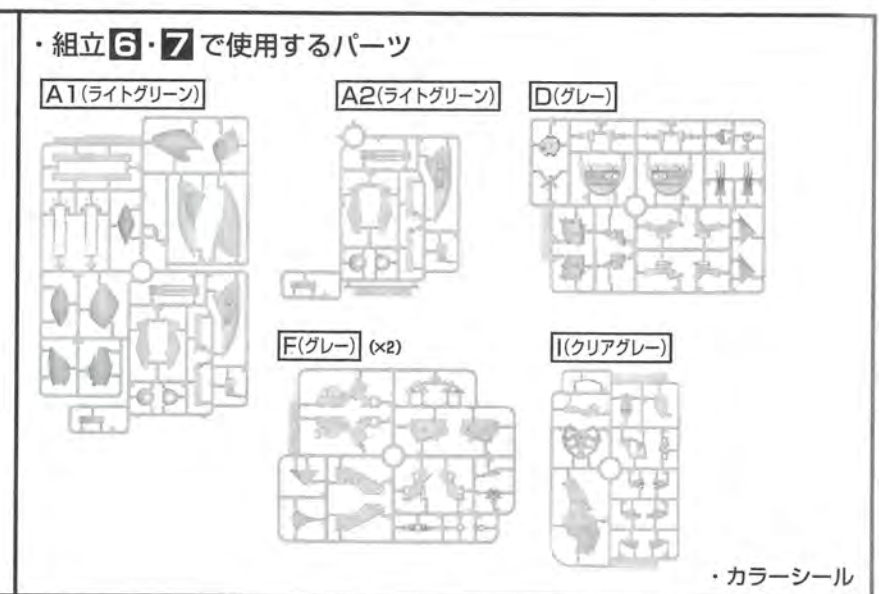
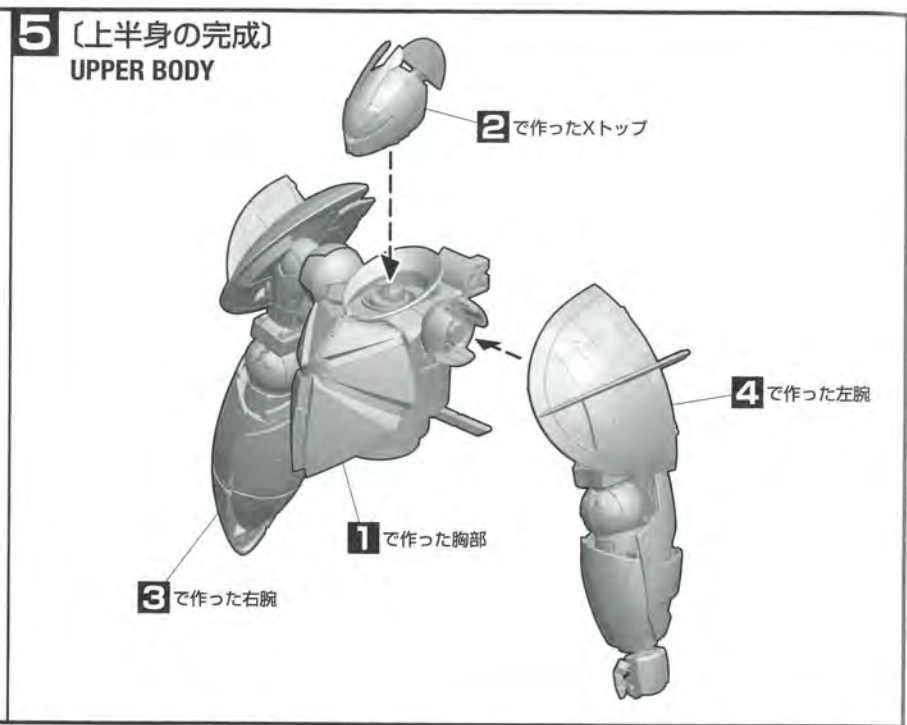
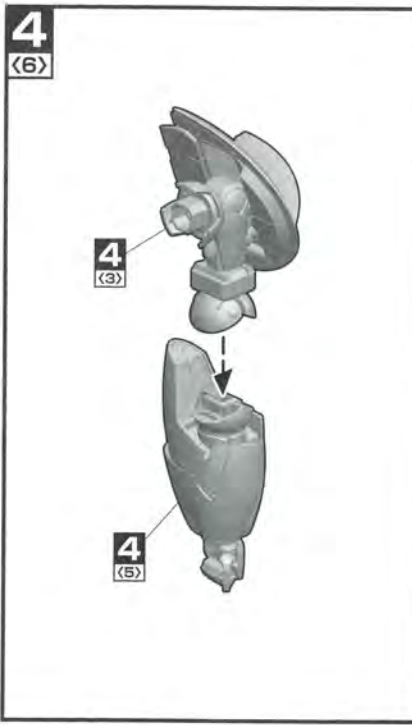
3 (8)



4 (左腕の組立)

4 (1) LEFT ARM





Memory of the Moonlight Butterfly



衝撃の黒歴史

「マガンダムは月面で謎のMSと接触した。「ホワイトドールは、あのMSのことを知っている!」謎の機体と共振しているらしきマのcockpitの中でロランはとまどっていた。「こやつはちょっと訳ありだ」血気にはやるメリーベルのパンデットを制し、ターンXのギンガナムがロランに語りかける。そして、マが古代の宇宙文明を破壊した禁忌のMSであり、ターンXとマは戦う運命にあると告げ、絶叫とともに猛然と攻撃を仕掛けてくる。「共に死ねや! ローラ!!」。一方、ディアナは、月面都市ゲンガナム全域にむけて「黒歴史」の封印を解き放つ。かつての宇宙戦争を記録した膨大なデータ映像が、月面都市のあらゆる場所に映し出される。ギンガナムはその映像に武人の栄光を垣間みて快哉を叫ぶ。「我が世の春が来たア!!」。その間にも「ターンX」と「マガンダム」の戦闘と共振は続いていた。そして映像は、廃墟と化した都市に向かって飛ぶ1機のターンタイプを映し出す。その背から蝶の翅のような光が拡散し、振りまかれた鱗粉のごとき輝きは都市を砂塵に変えていった。ディアナはターンタイプMSがかつての文明を埋葬したと語り、ロランとギンガナムはお互いの乗るMSの真の姿を理解する。

黄金の秋

地球のロストマウンテンで対峙するターンXとマガンダム。「今までの時代は間違っていたのだ!!」ギンガナムはターンXですべてを破壊し、新しい時代を始めるのだとロランに言い放ち襲い掛かる。双方の光刃が交差した瞬間、2機のターンタイプMSは硬直し、機体から光の粒子が奔流となって溢れ出した。「その金縛り状態を解かねと、また黒歴史がくるぞオツ!!」コレンの紅い角つきカブルが割って入る。「その股ぐらにロケットパンチ!!」しかしその攻撃は功を奏すことなく、コレンのカブルはターンXの放つナノマシンに覆われ爆散してしまう。戦闘は熾烈を極め、ターンXは機体を分離してマにオールレンジ攻撃を仕掛ける。「そんな貴様にこの私は倒せん!!」「倒します!!」ロランは再び合体したターンXに捨て身で躍りかかり、腹部にシャイニングフィンガーを受けながらもターンXを袈裟切りにする。「おのれー!!!」ギンガナムは頭部ユニットで脱出し、2機ともに月光蝶の光を放ちながらその場にくずれる。そしてマから逃れたロランの前にギンガナムが立ちはだかり、太刀による生身の決闘を申し入れる。「剣で戦ったことは?」「一度だけ」「それは結構……勝負!!」はたして……!?



※画像はイメージです。



PAINTING (塗装) CONCEPT-X 6-1-2 ターンX

※ここに掲載している情報は2014年6月現在のものです。

<p>本体等 ライトグリーン部 ベールグリーン(65%) +ホワイト(35%) +グレー(少量)</p>	<p>関節等 グレー部 グレー(80%) + ブラック(20%)</p>	<p>メインカメラ イエロー部 イエロー(100%)</p>
<p>キャラバス等 ブルー部 パープル(45%) + インディブルー(35%) + ネービーブルー(20%)</p>	<p>武器、キャラバス、内部メカ ダークグレー部 ネービーブルー(100%) + レッド(少量)</p>	

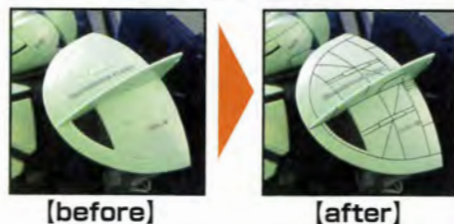
※よりリアルに仕上げたい方は、上の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、画像とカラーガイドの色は異なる場合があります。

FIGURE ギム・ギンガナム

<p>顔等 セールカラー(90%) + ホワイト(10%)</p>	<p>ブーツ、カウチング ブラック部 ブラック(100%) + ホワイト(少量)</p>	
<p>髪 ブルー部 パープル(45%) + インディブルー(35%) + ネービーブルー(20%)</p>	<p>カサヤ レッド部 モンザレッド(100%)</p>	
<p>上半身等 ライトグレー部 ホワイト(100%) + グレー(少量) + パープル(少量)</p>	<p>カウチング等 ゴールド部 ゴールド(100%)</p>	
<p>下半身等 ダークグレー部 + ネービーブルー(100%) + レッド(少量)</p>		

ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!
ガンダムマーカ-スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



[before]

[after]

MECHANISM & WEAPONS



BAZOOKA

バズーカ

ターンXの携行武装。実体弾を射出するが、その作動において、炸薬によるものか、あるいは電磁的な技術に依拠しているのかは不明。フィールドが搭載されている機体など、ビーム兵器が有効でない場合に威力を発揮する。通常は背部のウェポンプラットフォーム(キャラバス)に収納されており、その状態で砲弾の補充やメンテナンスが行われているらしいが、詳細は不明である。ビーム弾を射出するバリエーションが存在するという説もある。

BEAM RIFLE

ビームライフル

ターンXの携行武装。マが装備するビームライフルと同系等に属すると思しき形状で、スベックもほぼ同等らしい。中、長距離戦闘用の兵器であることから、状況に応じてモード変換を行う可能性もある。モード変換は本体とのデータリンクによって内蔵デバイスが自動的に判断、実行されるらしい。通常は背部のキャラバスに収納されており、その状態でエネルギーの充填やメンテナンスが行われているようだが、詳細は不明である。

ARM UNIT

腕部武装

ターンXの右腕は他に携行される武装よりも使用頻度が高い武器の集合体となっている。先端部に小型クローとレーザー砲を装備する「ワイヤークロー」、オールレンジ攻撃の際にも有効な「3連装ビーム投射システム」、そして機体のデータベースに「シャイニングフィンガー」の名で登録されている「溶断破碎マニピュレーター」は、開いた掌から生成されるビーム状の触媒をフィールドで形成し、それをもって対象を粉砕する最強装備である。

Shining Finger



右腕の溶断破碎マニピュレーターから放出されるビームをクリアパーツで再現。



X-TOP

頭部ユニット

ターンXのcockpitユニットであり、脱出装置としての機能も併せ持つ。機体を分離させてオールレンジ攻撃を行う際の中枢システムだが、他の部位と異なり武装は施されていない。稼働状況によってスリットの奥が発光し、さらには人間の目に見える場合がある。資料によると「軌道衛星砲カイルス・ギリのコントロールシステム」との記述があるが、実際に稼働させたケースの有無や、そもそも件の軌道衛星砲の実在も判然としない。



WEAPONS PLATFORM

背面ユニット

ターンXが背部に装備するウェポンプラットフォームで、「キャラバス」とも呼ばれる。ビームライフルやバズーカなどを始めとする多数の武器の複合体とされる。オールレンジ攻撃の際、他のパーツと組み合わせる場合もある。本来は惑星間移動用の機体の推進システムとして機能していた、あるいは、ターンX本体とは別に発掘されたものという説もある。実際、武装の収納パレットとしては空のスペースも多く、未発見、あるいは喪失した武装の存在も取り沙汰されている。



付属のディスプレイベースに胴体部を取り付け、劇中を再現した展示が可能。

※この商品にはMGターンXがセットのみ入っています。

ALL RANGE ATTACK

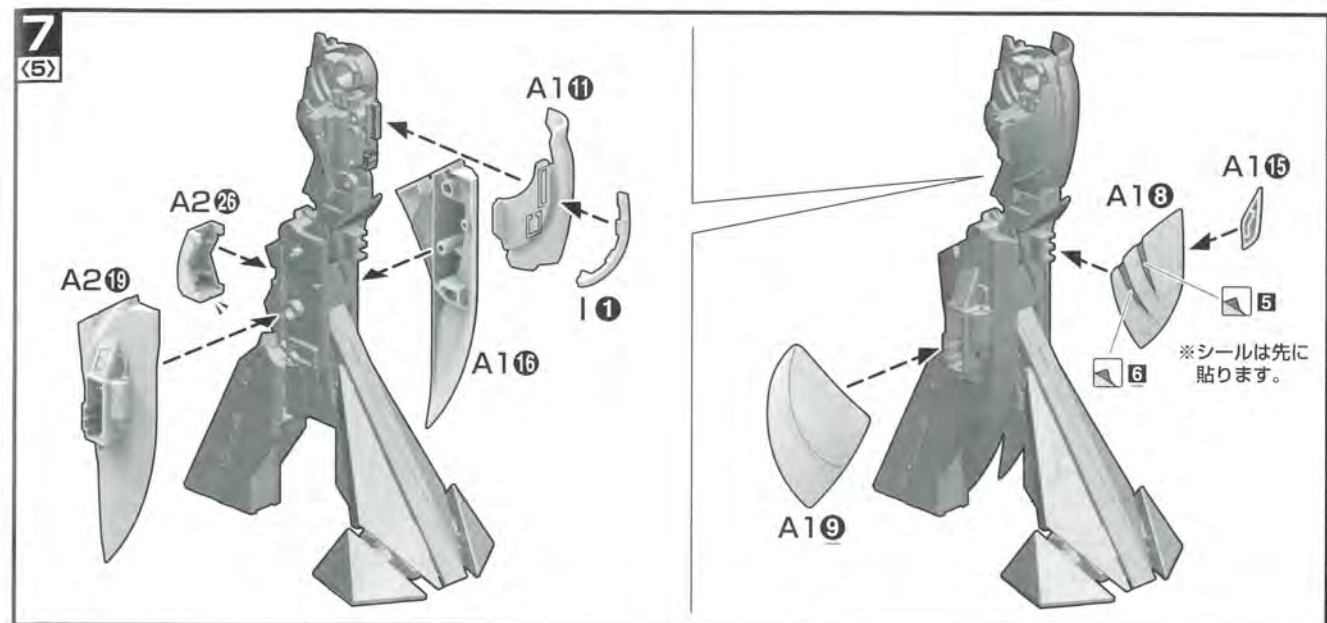
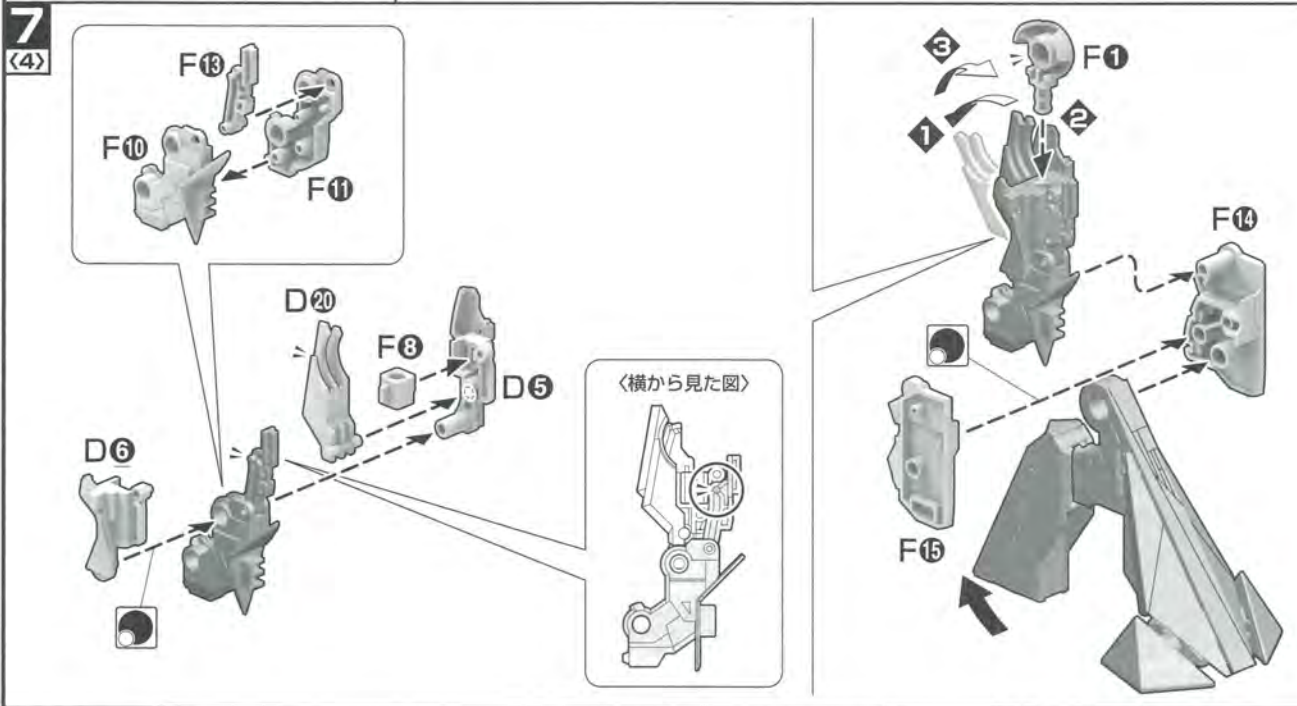
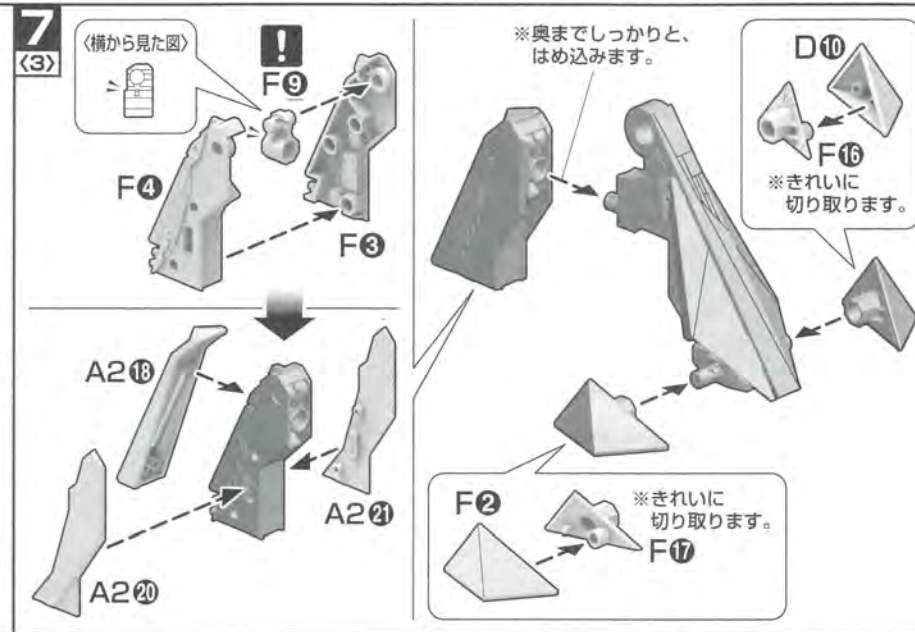
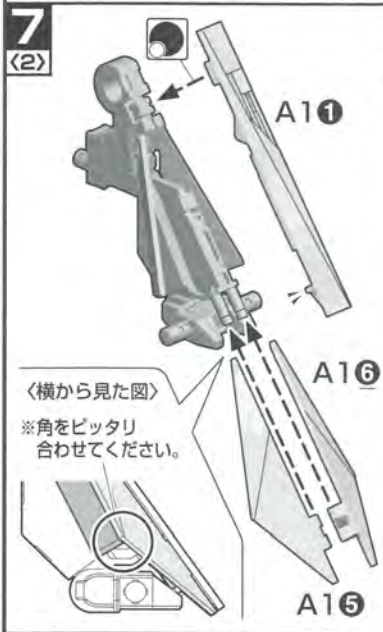
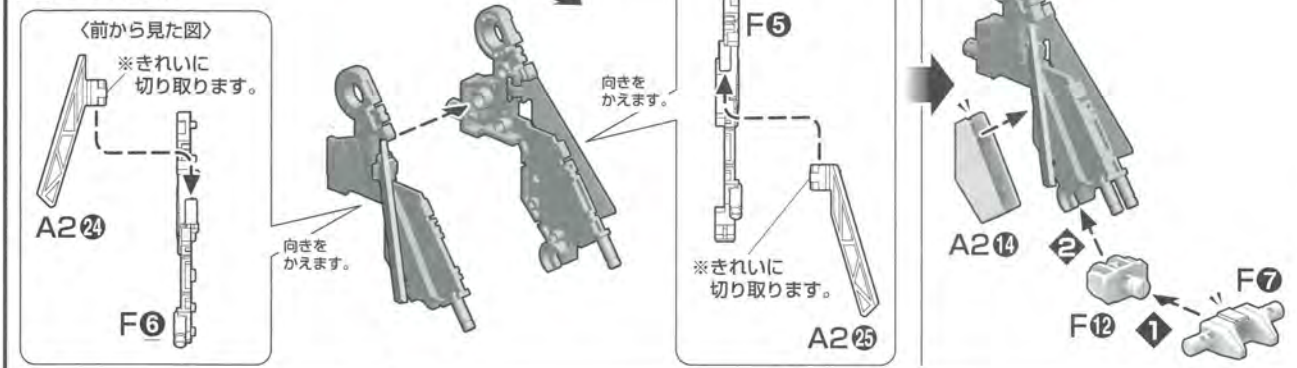
オールレンジ攻撃

頭部、両腕、両肩、胸部、腰部、両脚、キャラバスと、機体を10パーツに分離し、頭部以外の全ユニットが各個に攻撃を行うモード。重力下でも使用可能であり、敵機を包囲したのち強力なフィールドを発生させ拘束する機能も持つ。特に包囲攻撃は「ブラディ・シージ (bloody siege=血の包囲網)」と名付けられており、黒歴史上では「サイコミュ」と呼ばれるシステムによる「オールレンジ攻撃」に酷似した特徴を持っている。

付属のディスプレイベースは、クリア素材を採用することで、劇中さながらの浮遊イメージでのディスプレイが可能。

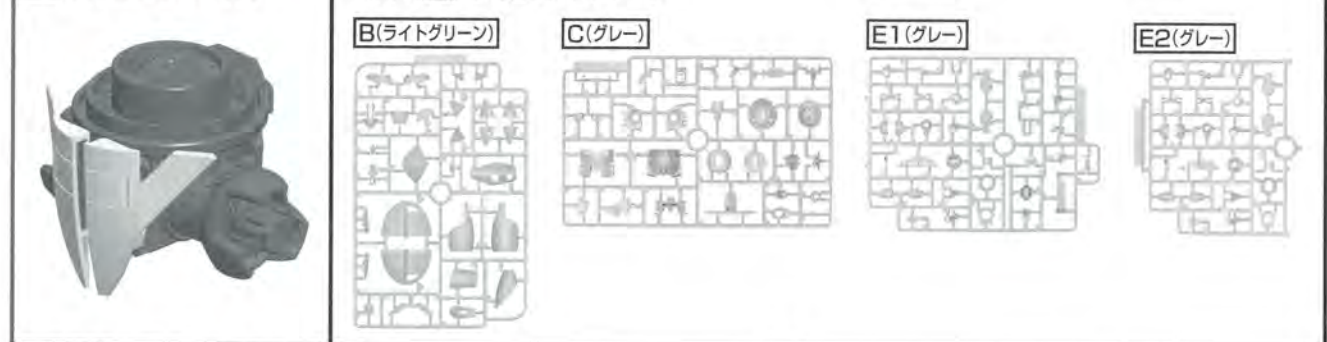
7 (左足の組立)

7 (1) LEFT LEG

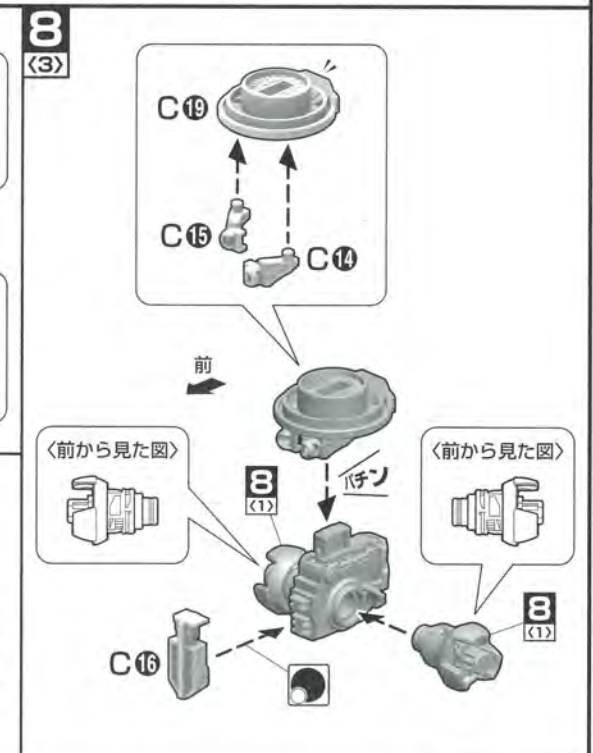
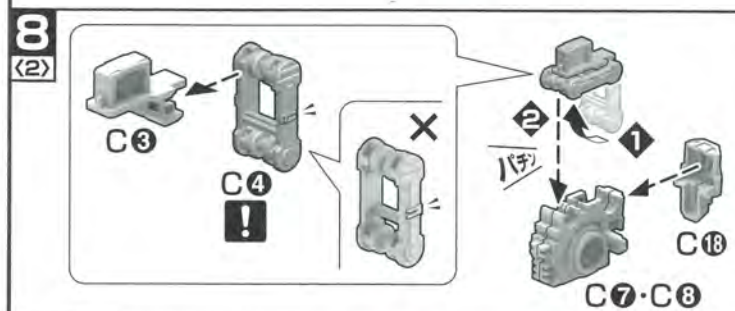
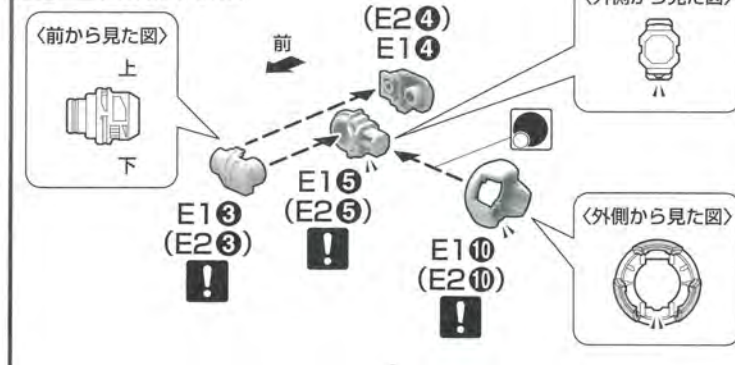


8 WAIST UNIT

・組立8で使用するパーツ



8 (腰部の組立) WAIST UNIT



8 (4)

※きれいに切り取ります。 ※きれいに切り取ります。
※切り取らないように注意してください。 ※切り取らないように注意してください。

C2
B24 B20
向きをかえます。

C1
B25 B19

9 (下半身の完成)
LOWER BODY

8で作った腰部
7で作った左脚
6で作った右脚

10

5

11 WEAPONS PLATFORM

・組立11で使用するパーツ

B(ライトグリーン) E1(グレー) E2(グレー)
G(ダークブルー) H(ダークグレー) I(クリアグレー)

11 (ウェポンプラットフォームの組立)
(1) WEAPONS PLATFORM

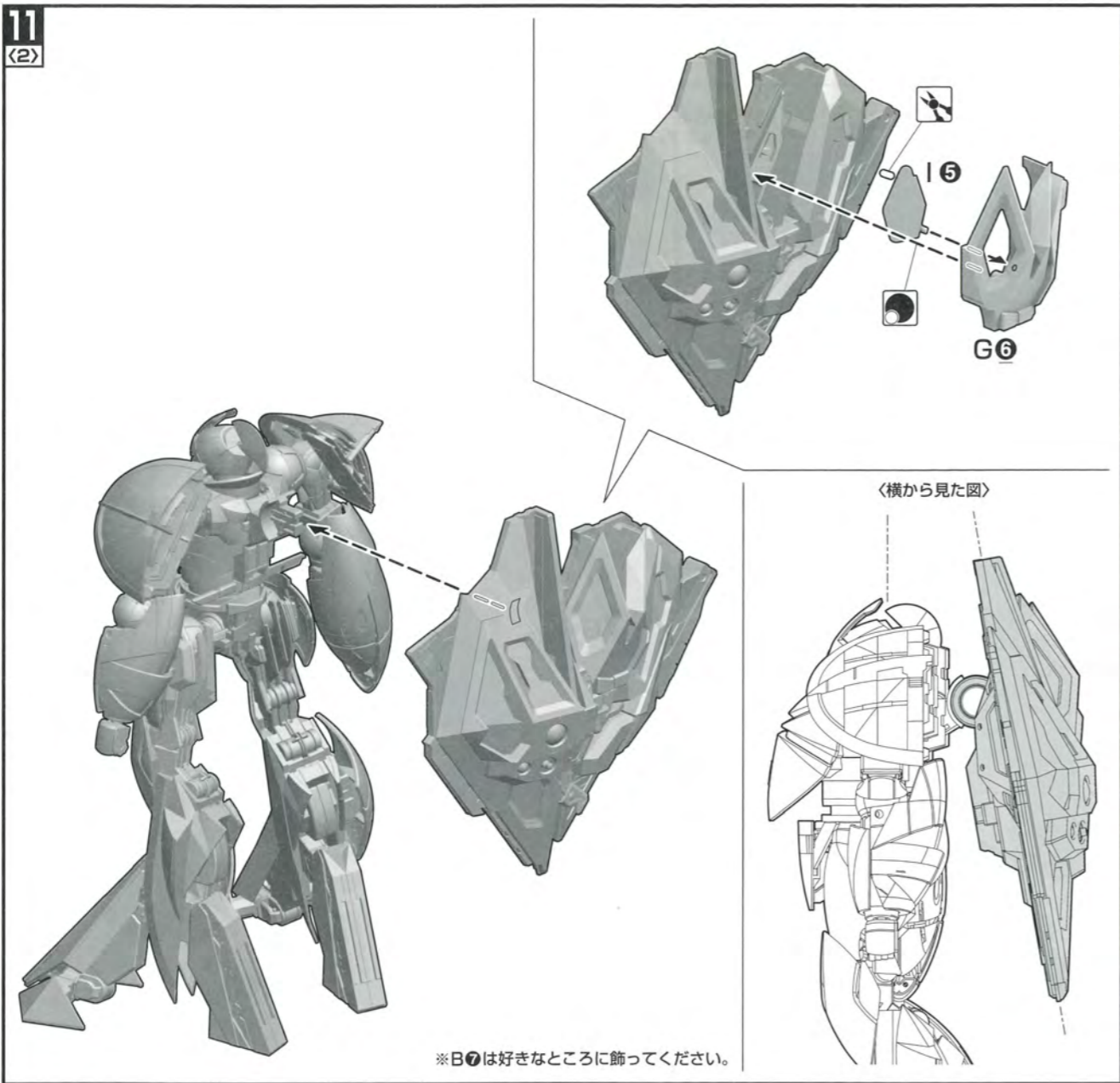
E124 E19 E29
※E19とE29の向きをそろえます。

G3 H6 H1
※注意して奥まで差し込みます。

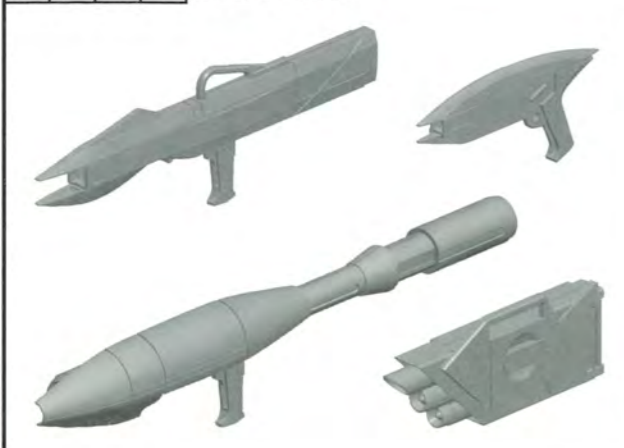
G7 G1 H2
※注意して奥まで差し込みます。

E123 G4 G5 G2 I8

〈外側から見た図〉
E123

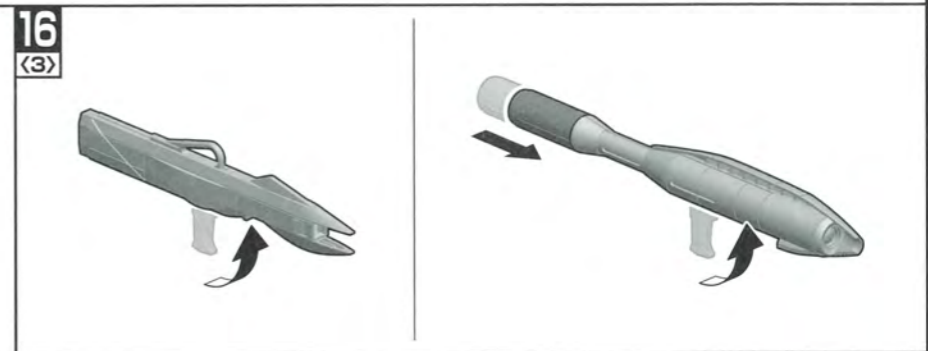
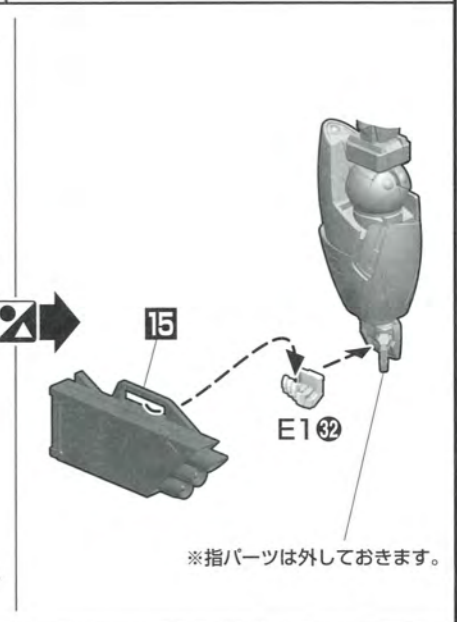
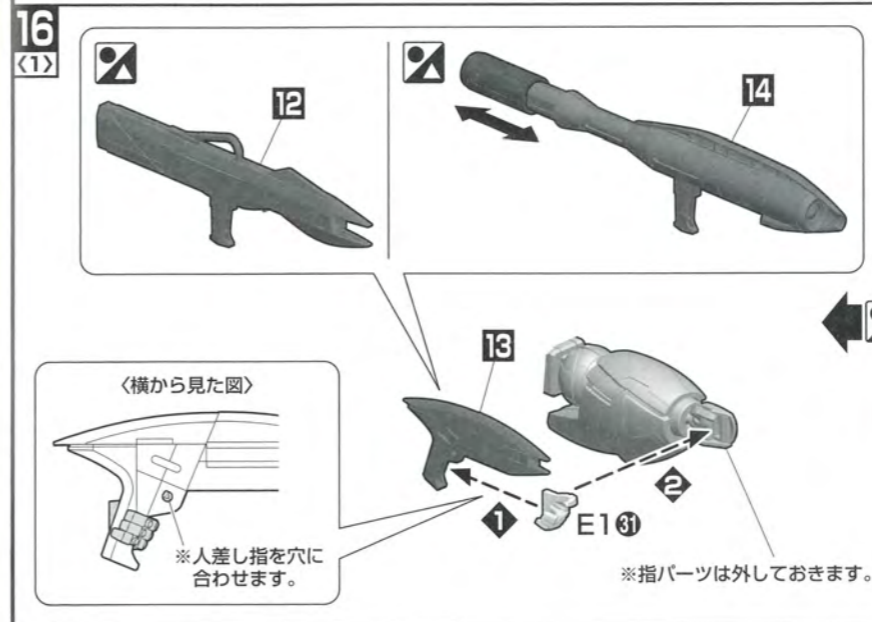
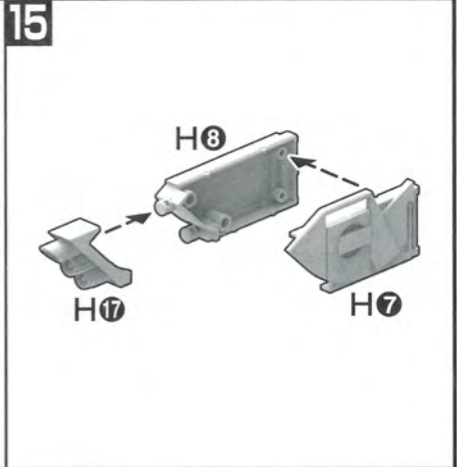
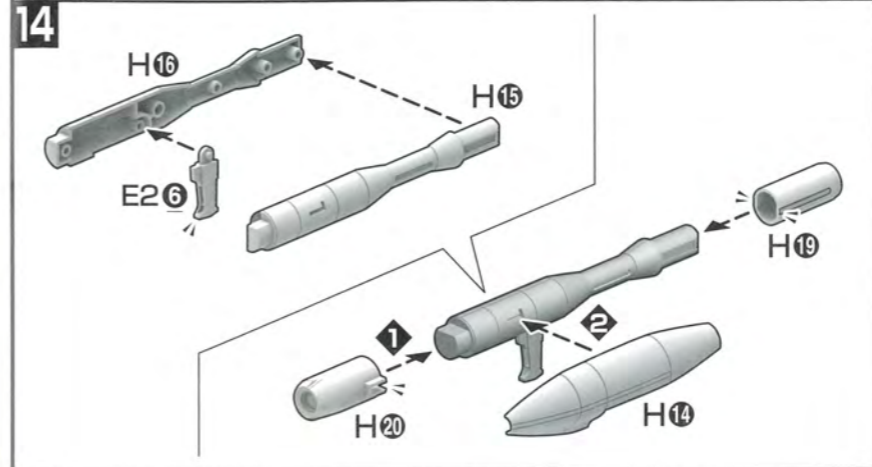
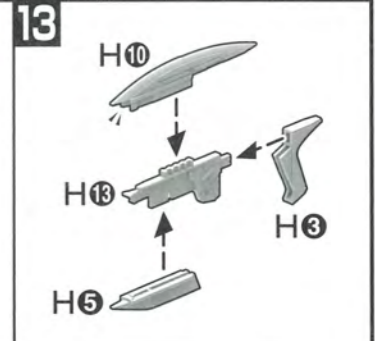
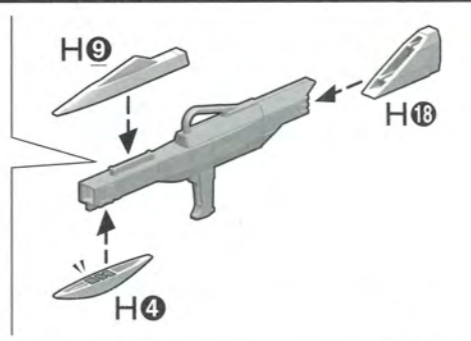
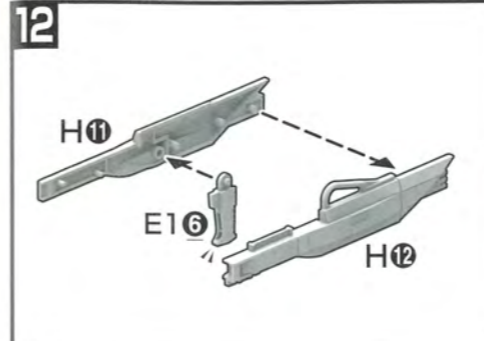


12 13 14 15 WEAPONS

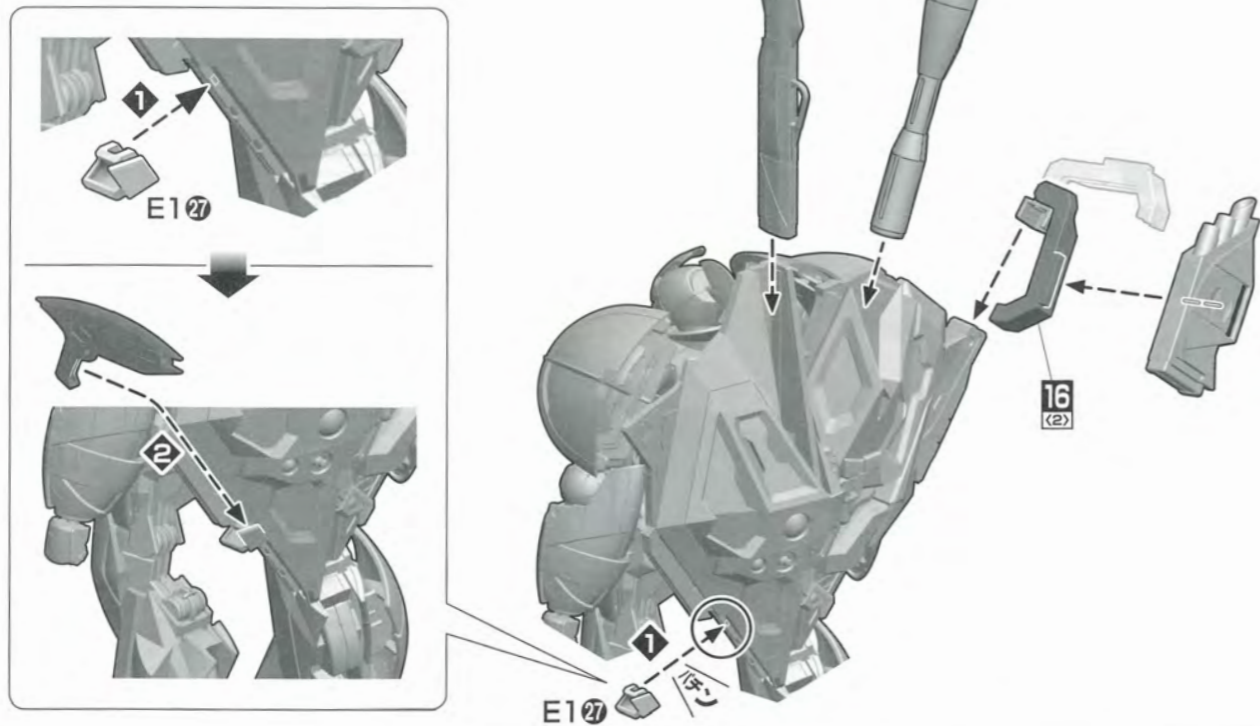


・組立12・13・14・15・16で使用するパーツ

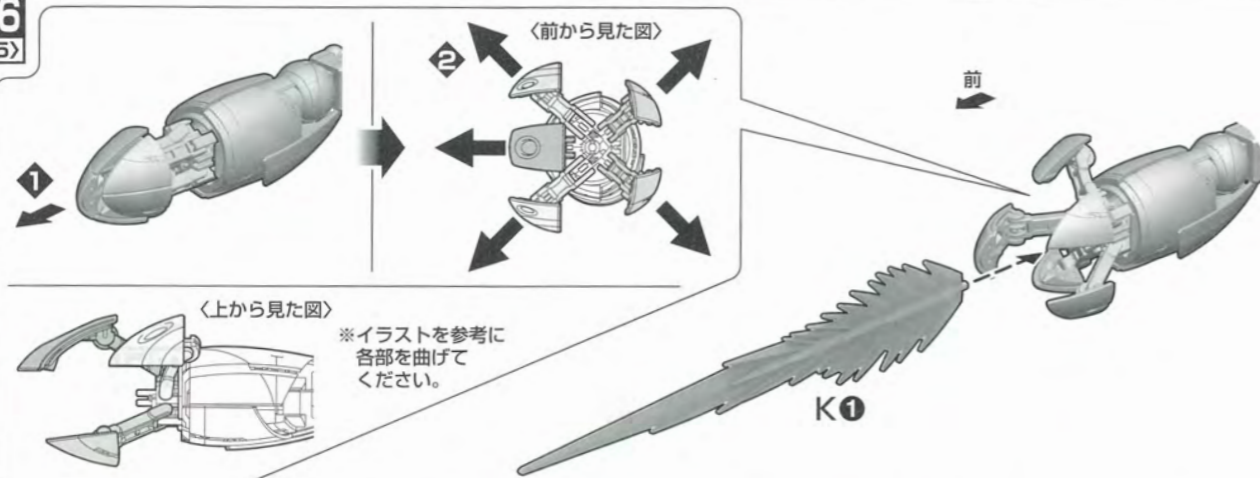
E1(グレー)	E2(グレー)	H(ダークグレー)
		K(クリアオレンジ)



16
(4)



16
(5)



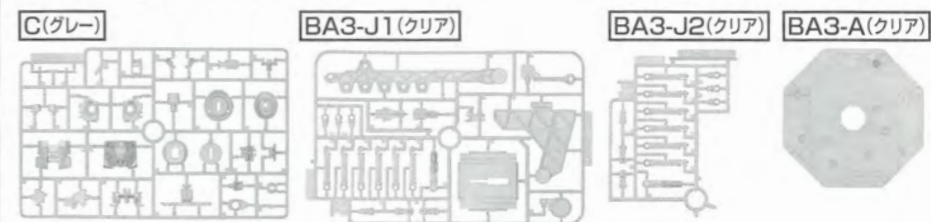
16
(6)

＜コクピットの開き方＞

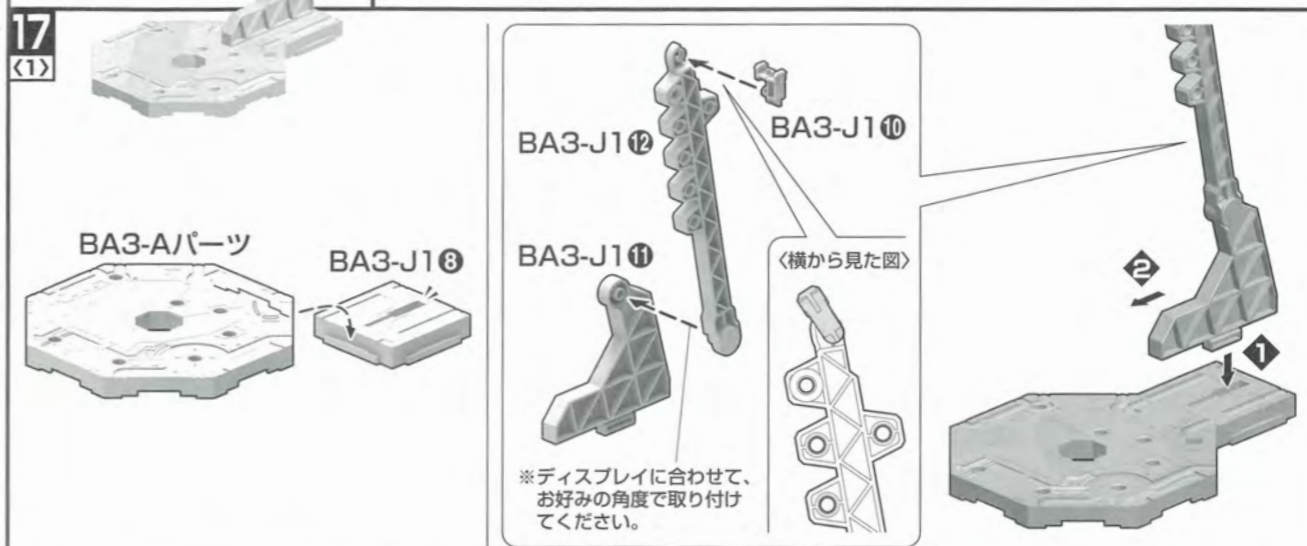


17 DISPLAY BASE

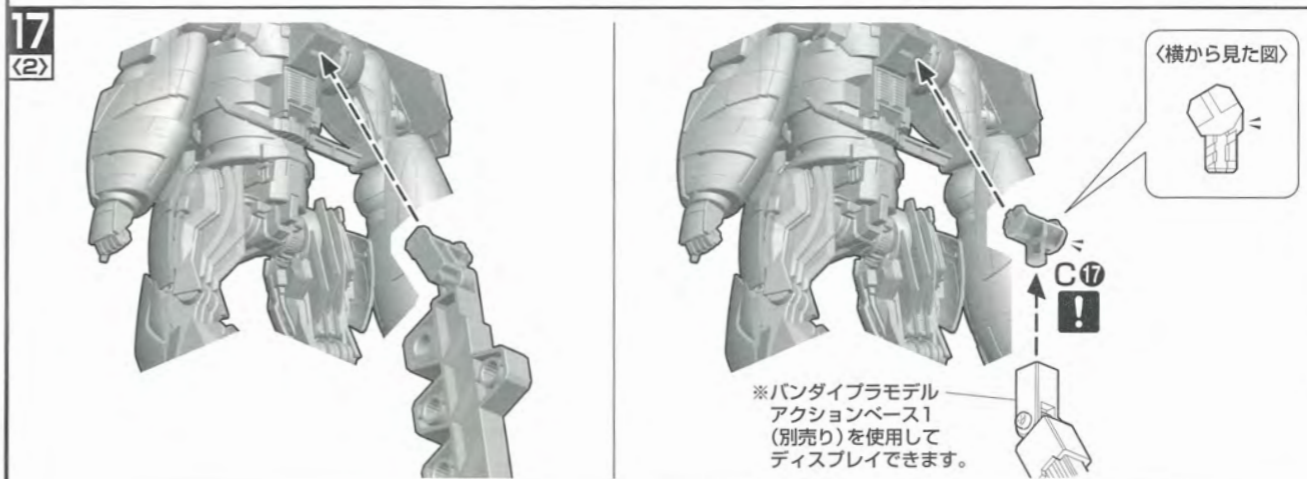
・組立17・18で使用するパーツ



17
(1)

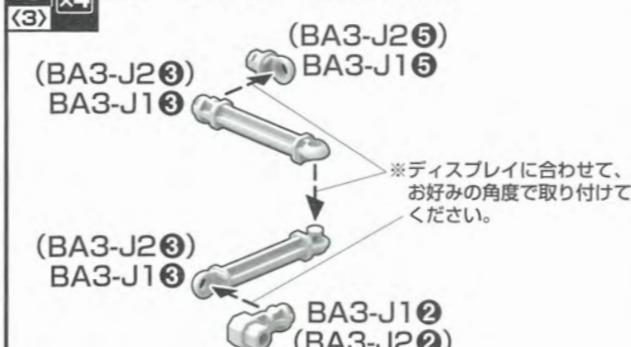


17
(2)

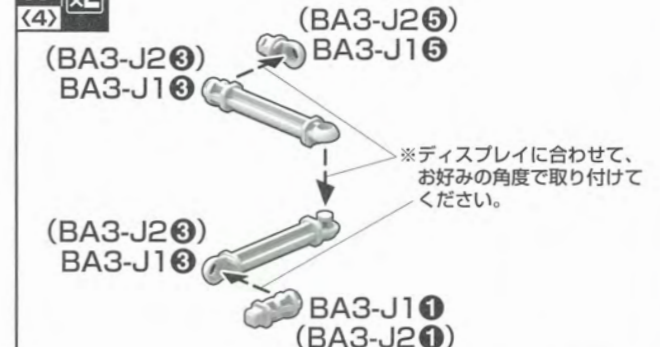


17
(3)

【オールレンジ攻撃の再現】



17
(4)



17 (5) ※(17)からBA3-J1⑩を取り外します。

BA3-J1④
BA3-J1⑨

BA3-J1⑬
※ディスプレイに合わせて、お好みの角度で取り付けてください。

BA3-J1⑥
BA3-J1⑦

※ディスプレイに合わせて、お好みの角度で取り付けてください。

17 (6) ※各部を外します。 ※説明は一例です。

〈ウェポンプラットフォーム〉

〈Xトップ〉

〈胸部〉

〈右肩〉

〈左肩〉

〈右腕〉

〈左腕〉

〈腰部〉

〈右脚〉

〈左脚〉

17 (7) 〈Xトップ〉

〈胸部〉

〈腰部〉

〈ウェポンプラットフォーム〉

17 (6)

※説明のため、一部画像を省略しています。

17 (8) (右脚も変形させる)

〈左脚〉

※ツマ先を少し下げます。

17 (9) (右脚も変形させる)

〈横から見た図〉

17 (10) (右脚も変形させる)

17 (11) ※右側も同様に取り付けます。

〈左肩〉

※お好みの角度で取り付けてください。

〈左腕〉

※お好みの角度で取り付けてください。

〈右肩〉

〈右腕〉

〈右脚〉

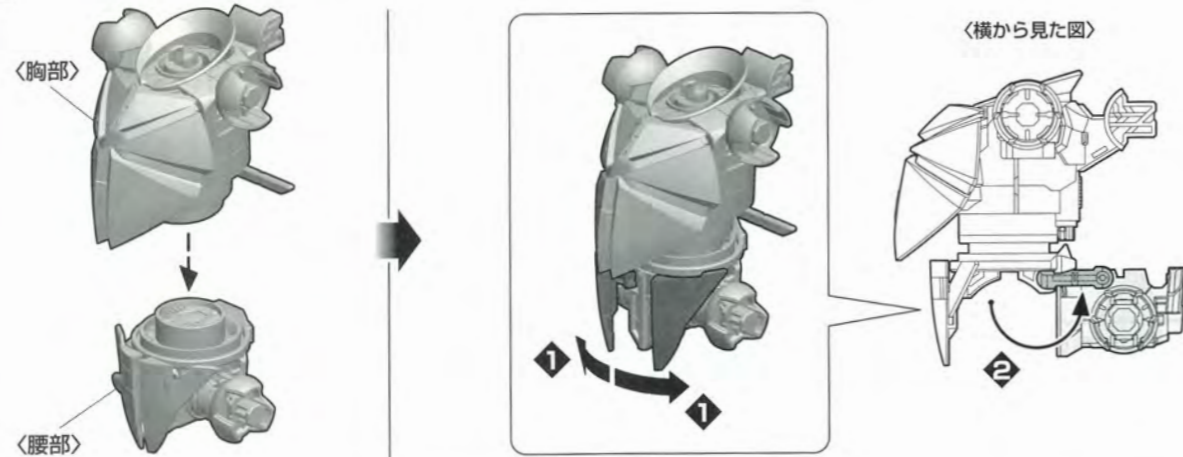
〈左脚〉

※お好みの角度で取り付けてください。

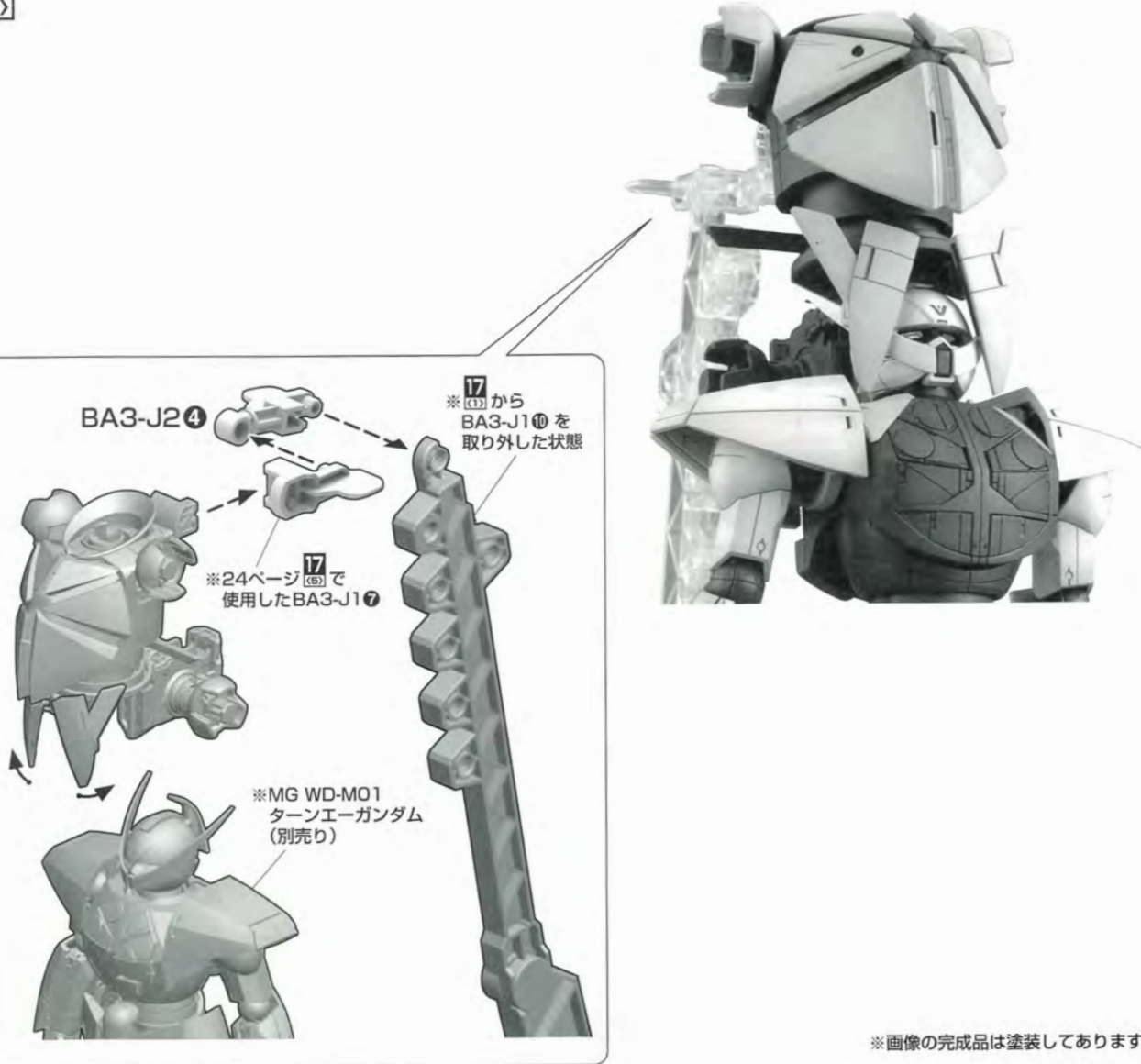
※画像の完成品は塗装してあります。

18 (劇中をイメージしたディスプレイ)

(1)



18 (2)



※画像の完成品は塗装してあります。

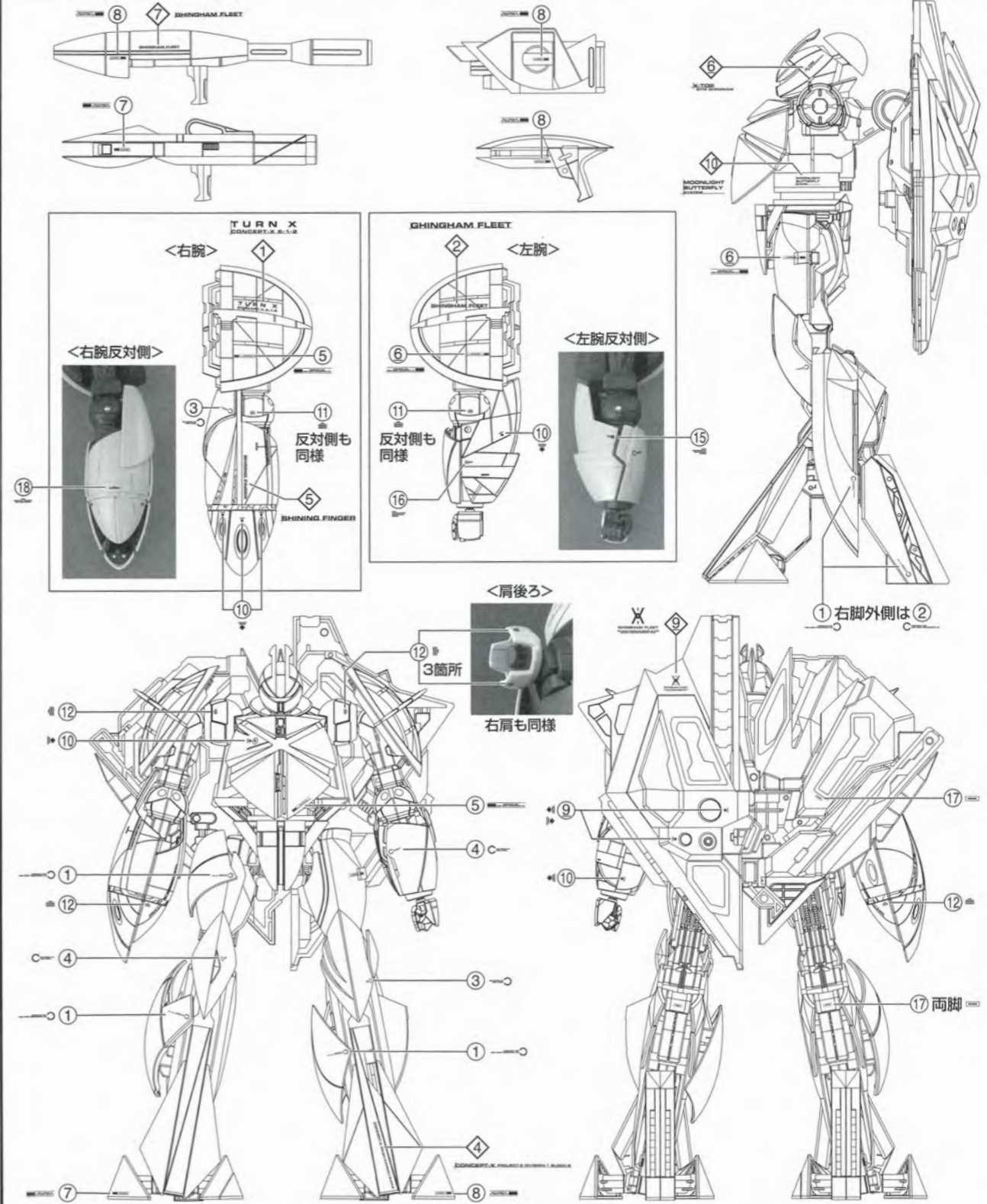
Seal 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの (シール) 貼る位置を確認してください。

【ガンダムデカールの貼りかた】 ※P7のガンダムデカールの貼り方を参考に あせらずゆっくり貼ってください。

1. 転写するマークを大きめに切ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすりつけます。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

マーキングシールは○に数字
ガンダムデカールは◇に数字で表記してあります。
【例】①・・・マーキングシール ◇・・・ガンダムデカール



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼ってください。 ※説明のため、一部画像を省略しています。 ※画像と実際の商品は多少異なります。